

Ⅲ. 地域連携

—関西地区 FD 連絡協議会の 3 年目の活動成果—

Ⅲ. 地域連携

Ⅲ－１．関西地区FD連絡協議会－３年目の活動成果－

関西地区FD連絡協議会は、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関して地域で連携する互助組織として、2008年4月に発足した。協議会は、この3年間、5つのワーキング・グループ（FD情報支援・FD共同実施・FD連携企画・広報・研究）を中心に、活動を推進してきた。現在、本協議会には、関西地区の過半数を超える133校（114法人）が参加している。

ちなみに、本書でも報告されているように、平成22年9月8日に京都大学で開催された「FDネットワーク代表者会議（JFDN：Japan FD Network）」には、「いわて高等教育コンソーシアム」「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」「東日本地区大学間FDネットワーク・つばさ」「大学コンソーシアム石川」「F-レックス（福井県学習コミュニティ推進協議会）」「FD・SD教育改善支援拠点」「全国私立大学FD連携フォーラム」「大学コンソーシアム京都」「相互研修型FD共同利用拠点」「山陰地区FD連絡協議会」「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク（Q-Links）」など全国のFDネットワーク・拠点の代表者が集まり、情報交換・議論をおこなった。関西地区FD連絡協議会は、この3年間の活動で大きく組織化と日常化とを進め、全国屈指の連携組織となった。

今年度の活動は、本格的な日常的な営みに変わってきた。堅実に展開されつつある活動については以下で詳しく報告するが、とりわけ着目されるべきは、昨年来の研修マトリックス、研修カレンダー、FD支援システム「MOST (Mutual Online System for Teaching and Learning)」などの作成とMOSTとの連携である。関西地区FD連絡協議会が主催・共催・協賛する研修事業は、事業の種類やテーマにあわせて研修マトリックスによって分類され、研修カレンダーに掲載される。会員校は、これによって参加する研修事業を決定し、自校での研修計画の実施に役立てることができる。これらの各大学のFDの成果は、MOSTによって、自覚化されるとともに、外への説明に供され、会員校で共有される。MOSTを用いたポスターセッションは、以下に詳述するように、総会当日に実施され、多くの実質的成果を上げることができた。

こうして関西地区FD連絡協議会は、相互研修型FDネットワークの実質的展開の段階に入った。これが実質的な内的改革に結実するか否かは、残り2年の関係各位の努力にかかっている。いずれにせよ、今日の高等教育の深刻な危機に際しては、互いに排除しあう競争よりもむしろ、本協議会のように互いに連携しあう協働こそが、求められているのである。

（田中 每実）

Ⅲ－１－１．活動成果の概要

1. 関西地区 FD 連絡協議会 第3回総会

本協議会の第3回総会が、2010年4月24日に京都大学百周年時計台記念館において開催された。本総会では、各ワーキング・グループから2009年度の活動報告および予算報告、2010年度の活動方針および予算計画について報告があり、承認が得られた。また、新たな試みとして会員校の組織的FDの取り組みに関するポスターセッション「FD活動の報告会」が実施された。本協議会設立3年目を迎えた今回の総会では、これまで整えてきた体制を基盤として、今後さらに大学間の連携を深めていくことが確認された。

第3回総会プログラム

総 会【京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール】13：00～

進 行：山成 数明（大阪大学）

開会挨拶：米谷 淳（神戸大学）

議 事

議 長：田中 每実（京都大学・代表幹事校代表）

- (1) 平成 21 年度活動報告について
- (2) 平成 22 年度活動方針について
- (3) 平成 21 年度決算について
- (4) 平成 22 年度予算について
- (5) その他

ポスターセッション「FD 活動の報告会」【同 国際交流ホールⅡ】14：45～

活動報告【同 百周年記念ホール】16：00～

- (1) 「携帯電話を使った出欠確認研究から FD メディア研究への展開」
福永 栄一（大阪成蹊大学）
- (2) 「共同実施 WG－2009～2010：初任者研修共同実施にむけて－」

服部 憲児（大阪大学）

倉茂 好匡（滋賀県立大学）

久保田哲夫（関西学院大学）

田口 真奈（京都大学）

半澤 礼之（京都大学）

(3)「理学療法教育における自生的 FD 実践－OSCE リフレクション法をスタートとして－」

平山 朋子（藍野大学）

閉会挨拶：田中每実（京都大学・代表幹事校代表）

情報交換会【同 国際交流ホールⅡ・Ⅲ】17：30～

進 行：大塚 雄作（京都大学）

第3回総会の議事録を以下に記す。

【総会議事】

1. 開会の辞

開会に先立ち、進行役の山成数明教授（大阪大学）より、本協議会規定第6条第6項による出席会員校数の要件を充たし、本日の総会が成立したことについて報告があった。

米谷淳教授（神戸大学）より、開会の挨拶があった。

2. 議長紹介

山成教授より、本協議会規約第7条第3項に基づき、代表幹事校代表の田中每実教授（京都大学）が本日の総会の議長となることについて説明があった。

田中議長より、挨拶があった。

3. 議事

(1) 平成21年度活動報告および平成22年度活動方針について

各ワーキンググループ（WG）の責任校より以下のとおり報告があった。

①FD 情報支援 WG（報告者：大阪府立大学 高橋哲也教授）

高橋教授より平成 21 年度活動について、および平成 22 年度活動方針案について報告があった。

②FD 共同実施 WG（報告者：大阪大学 山成数明教授）

山成教授より平成 21 年度活動について、および平成 22 年度活動方針案について報告があった。

③FD 連携企画 WG（報告者：立命館大学 安岡高志教授）

安岡教授より平成 21 年度活動について、および平成 22 年度活動方針案について報告があった。

④広報 WG（報告者：大阪市立大学 矢野裕俊教授）

矢野教授より平成 21 年度活動について、および平成 22 年度活動方針案について報告があった。

⑤研究 WG（報告者：神戸大学 米谷淳教授）

米谷教授より平成 21 年度活動について、および平成 22 年度活動方針案について報告があった。

以上、各 WG の活動報告および活動方針について承認された。

(2) 平成 21 年度決算および平成 22 年度予算について

（報告者：京都大学教育推進部 藤咲仁一課長）

本協議会事務局（京都大学教育推進部）より、平成 21 年度決算案について説明があった。

会計監査役の久世雅之事務部長（近畿大学教育改革推進センター）より、平成 21 年度決算に関して近畿大学・大阪工業大学によって監査をおこなった結果、すべて適正であった旨報告があった。平成 21 年度決算について承認された。

本協議会事務局より、平成 22 年度予算案について説明があり、承認された。

(3) 次期幹事校・監査役の選出について

田中議長より、次期幹事校および監査役は現状を維持することについて提案があり、承認された。

（以上で議事録終了）

場所を国際交流ホールⅡに写し、ポスターセッション「FDの報告会」がおこなわれた（その詳細については、次項Ⅲ－１－２を参照されたい）。

再び百周年記念ホールに戻り、本協議会会員校による活動報告がおこなわれた。まずはじめに、福永栄一氏（大阪成蹊大学）より「携帯電話を使った出欠確認研究からFDメディア研究への展開」というタイトルで報告があった。その中で、出欠確認研究サブ・グループの活動や、携帯電話を使った出欠確認システムである「I-MAS」を使った授業評価アンケートの事例等が紹介された。

次に、服部憲児氏（大阪大学）、倉茂好匡氏（滋賀県立大学）、久保田哲夫氏（関西学院大学）、田口真奈氏（京都大学）、半澤礼之氏（京都大学）より、「共同実施WG－2009～2010：初任者研修共同実施にむけて－」というタイトルで報告があった。その中で、共同実施ワーキング・グループの2009年度の活動（研究会、初任者研修担当者ワークショップ）および2010年度の活動（初任者研修調査、研究会、研修会）が紹介された。また、共同実施ワーキング・グループの各参加校（大阪大学、滋賀県立大学、関西学院大学、京都大学）の研修を手がかりとして、初任者研修の現状が検討された。

最後に、平山朋子氏（藍野大学）より、「理学療法教育における自生的FD実践－OSCEリフレクション法をスタートとして－」というタイトルで報告があった。その中で、藍野大学医療保健学部理学療法学科の事例もとに、理学療法版OSCE（Objective Structures Clinical Examination：客観的臨床能力試験）、OSCEリフレクション法（OSCE-R）の開発や、それらを用いた自生的なFD活動の実践が紹介された。

2. 組織と実施体制

本協議会の会員校数は、2011年2月10日現在で133校（114法人）である。括弧内の「法人」の表記については、同一法人組織である大学と短期大学（部）が単一の機関として入会していることを示す。昨年2009年2月10日時点では、129校（111法人）であり、会員校数は1年間で4校（3法人）の増加となる。会員校リストを表1に示す。

本協議会の組織図を図1に示す。本協議会の組織体制は、代表幹事校1校、常任幹事校5校、幹事校11校、監査役2校で構成されている（表2）。

本協議会の活動を推進するため、5つのWGとして「FD情報支援WG」「FD共同実施WG」「FD連携企画WG」「広報WG」「研究WG」が設置されている。これらWGの活動については、本書Ⅲ－1－3以降で詳述されているのでそちらを参照いただきたい。なお、各WGには、円滑な運営のために、数校の幹事校によって構成される「部」が設置されている（表3）。部の構成校については設立当初より変化はない。

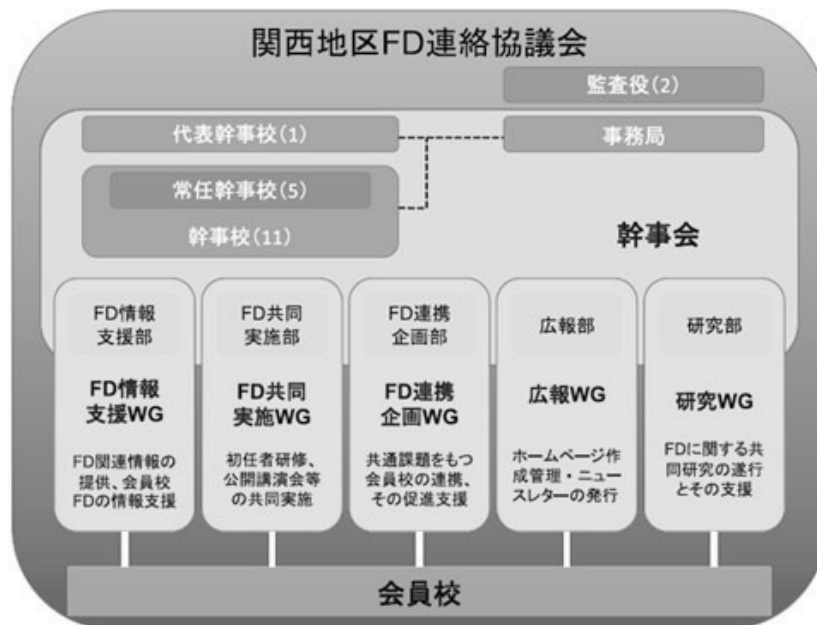


図1 関西地区FD連絡協議会の組織図

表 1 会員校名リスト 2011年2月10日現在、133校(114法人*)

藍野大学、芦屋女子短期大学、池坊短期大学、追手門学院大学、大阪大学、大阪青山大学、大阪医科大学、大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部*、大阪観光大学、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部*、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学*、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学・大阪薫英女子短期大学*、大阪府立大学、大阪薬科大学、大谷大学・大谷大学短期大学部*、華頂短期大学、関西大学、関西医科大学、関西医療大学、関西外国語大学、関西看護医療大学、関西福祉科学大学・関西女子短期大学*、関西学院大学、畿央大学、京都大学、京都医療科学大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学*、京都学園大学、京都教育大学、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部*、京都産業大学、京都女子大学・京都女子大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学、京都文教大学・京都文教短期大学*、京都薬科大学、近畿大学、甲子園大学・甲子園短期大学*、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学*、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、神戸山手大学・神戸山手短期大学*、堺女子短期大学、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、滋賀短期大学、四條畷学園短期大学、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部*、夙川学院短期大学、聖泉大学、聖母女学院短期大学、摂南大学、相愛大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、東洋食品工業短期大学、常磐会学園大学、長浜バイオ大学、奈良大学、奈良教育大学、奈良産業大学、奈良女子大学、奈良文化女子短期大学、羽衣国際大学、花園大学、阪南大学、東大阪大学・東大阪大学短期大学部*、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫教育大学、びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部*、びわこ成蹊スポーツ大学、佛教大学、平安女学院大学、湊川短期大学、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部*、桃山学院大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部*、流通科学大学、和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学

*同一法人組織である大学と短期大学(部)が、単一の機関として入会

表 2 関西地区 FD 連絡協議会の組織体制

代表幹事校(任期4年)	京都大学
事務局	京都大学
常任幹事校(任期4年)	大阪大学 大阪市立大学 神戸大学 同志社大学 立命館大学
幹事校(任期2年)	大阪府立大学 関西大学* 関西学院大学 神戸常盤大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 和歌山大学*
監査役(任期2年)	大阪工業大学 近畿大学

*は規約施行の最初の特例措置として、3年任期の幹事校。

表 3 関西地区 FD 連絡協議会の5つの部

FD情報支援部	同志社大学* 大阪府立大学 京都大学
FD共同実施部	大阪大学* 関西学院大学 京都大学
FD連携企画部	立命館大学* 関西大学 神戸常盤大学 京都大学
広報部	大阪市立大学* 和歌山大学 京都大学
研究部	神戸大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 京都大学

*はWGの責任校。各部に、代表幹事校(京都大学)が連絡担当として加わる

3. 幹事校会議（2010年度第1回、通算第4回）

2010年度におこなわれた幹事校会議の議事および資料について以下に挙げる。議事次第および○印を付した資料は、本節資料1～7として示す。幹事校メーリングリストを利用した回議については省略する。

日 時：平成22年4月9日（金）14：00～

場 所：京都大学本部棟大会議室（本部棟5階）

- 議 題：
1. 平成21年度活動報告案について
 2. 平成22年度活動方針案について
 3. 平成21年度決算案について
 4. 平成22年度予算案について
 5. 次期幹事校・監査役の選出について
 6. その他

（配付資料）

- 資料－1 関西地区FD連絡協議会幹事会（第4回）出席者名簿
- 資料－2 平成21年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕
- 資料－3 関西地区FD連絡協議会会員校一覧・大学連絡先（平成22年4月1日現在）
- 資料－4 関西地区FD連絡協議会幹事会（第3回）議事録（案）－平成21年4月10日開催－
- 資料－5 FD情報支援WG活動報告・活動方針案
- 資料－6 FD共同実施WG活動報告・活動方針案
- 資料－7 FD連携企画WG活動報告・活動方針案
- 資料－8 広報WG活動報告・活動方針案
- 資料－9 研究WG活動報告・活動方針案
- 資料－10 平成21年度関西地区FD連絡協議会決算書（案）
- 資料－11 平成22年度関西地区FD連絡協議会予算書（案）
- 資料－12 関西地区FD連絡協議会会費取扱要領
- 資料－13 関西地区FD連絡協議会主催・共催事業に係る謝金等支給基準（案）
- 資料－14 FD活動の報告会ポスター発表校一覧
- 資料－15 関西地区FD連絡協議会第3回総会プログラム（案）
- 資料－16 関西地区FD連絡協議会第3回総会『当日の手順』（案）

（石川 裕之、田川 千尋）

関西地区FD連絡協議会幹事会（第4回）出席者名簿

平成22年4月9日

幹事校名	幹事会出席者				備考
	部署名	役職	職種	氏名	
大阪大学	大学教育実践センター		准教授	服部 憲 児	常任幹事校
大阪市立大学	大学教育研究センター	副 所 長	教 授	矢 野 裕 俊	常任幹事校
大阪府立大学	総合教育研究機構	副 学 生センター長	教 授	高 橋 哲 也	
関西大学	教育開発支援センター	センター長	教 授	池 田 勝 彦	
関西学院大学	高等教育推進センター	教 育 技 術 主 事		谷 田 薫	
〃	高等教育推進センター	次 長		澤 谷 敏 行	
〃	教 務 部	主 任		小 川 ま つ み	
神戸大学	大学教育推進機構	大学教育支援研究推進室長	教 授	米 谷 淳	常任幹事校
〃	大学教育推進機構	全学共通教育部長		大 野 隆	
神戸常盤大学	保健科学部看護学科	教務委員長	教 授	江 上 芳 子	
同志社大学	教育開発センター	所 長	教 授	勝 山 貴 之	常任幹事校
〃	教育開発センター	事 務 長		原 真 一	
立命館大学	教育開発推進機構	教育開発支援センター長	教 授	安 岡 高 志	常任幹事校
〃	教学部教育開発支援課	課 長		山 本 勉	
龍谷大学・龍谷大学短期大学部	大学教育開発センター	センター長	教 授	松 本 和 一 郎	
〃	教学企画部	次 長		伊 勢 戸 康	
和歌山大学	教育学部	教 授		菊 川 恵 三	
京都大学	高等教育研究開発推進センター	センター長	教 授	田 中 毎 実	議長校(代表幹事校)
〃	〃		教 授	大 塚 雄 作	
〃	〃		教 授	松 下 佳 代	
〃	〃		准 教 授	溝 上 慎 一	
〃	〃		准 教 授	田 口 真 奈	
〃	〃		准 教 授	酒 井 博 之	
〃	〃		准 教 授	及 川 恵	
〃	教育推進部	部 長		中 崎 明	

■ 平成21年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕

年月日	会議等	内容	備考
21.4.10	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会(第3回)開催 ①平成20年度活動報告案について ②平成21年度活動方針案について ③平成20年度決算案について ④平成21年度予算案について ⑤その他	会場:京科大学本部棟大会議室 ◆平成20年度活動報告案・平成21年度活動方針案の決定 ◆平成20年度決算案の決定 会計監査は監査校(大阪工業大学・近畿大学)により実施の上総会に提出する旨了承 ◆平成21年度予算案の決定、年会費1校あたり2万円 ◆会員校における事業についての共催/協賛手続き及び研修マトリックスについて決定
21.4.13	(全会員校)	関西地区FD連絡協議会第2回総会のご案内	
21.4.17	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会(大学/短期大学(部)併設校)申し込みについて	◆短期大学との1校化:びわこ学院大学/びわこ学院大学短期大学部
21.4.21	(全会員校)	関西地区FD連絡協議会第2回総会のご出席について	
21.4.22	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会(大学/短期大学(部)併設校)申し込みについて	◆短期大学との1校化:関西福祉科学大学/関西女子短期大学
21.4.22	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:関西大学
21.4.25	総会	関西地区FD連絡協議会第2回総会開催 ①平成20年度活動報告について ②平成21年度活動方針について ③平成20年度決算について ④平成21年度予算について ⑤その他 -活動事例報告- ①「書くことの指導と評価」 ◆「関西大学工学部の場合」 池田 勝彦教授(関西大学) ◆「シンポジウムの論点のまとめ」 河崎 美保助教(京科大学) ②「組織的FDポートフォリオを活用したピアレビュー活動の提案」 酒井 博之准教授(京科大学) ③「携帯電話による授業評価・出欠確認システムの活用について」 福永 栄一准教授(大阪成蹊大学) 閉会挨拶 情報交換会	会場:京科大学時計台記念館国際交流ホール 参加会員校:64校 会出席者:99名 ①② ◆活動報告(ワーキンググループ) FD情報支援WG:高橋哲也教授(大阪府立大学) FD共同実施WG:山成敦明 教授(大阪大学) FD連携企画WG:安岡高志教授(立命館大学) 広報WG :酒井博之准教授(京科大学) 研究WG :松本和一郎教授(龍谷大学) ③平成20年度決算案の承認 会計監査は監査校(大阪工業大学・近畿大学)により実施された旨報告 ④平成21年度予算案の承認 ⑤会員校における事業についての共催/協賛の手続き及び研修マトリックスについての提案及び承認
21.5.13	(全会員校)	関西地区FD連絡協議会会費の納入について(お願い)	
21.5.21	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会:京都橋大学
21.6.1	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会:大阪薬科大学
21.6.2	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会パイロット校登録について	◆新規登録:京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科
21.6.11	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会:神戸市外国語大学
21.6.25	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:京科大学
21.8.5	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会:大阪人間科学大学/大阪薫英女子短期大学
21.8.21	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催:京科大学
21.9.8	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:京科大学
21.10.21	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催:関西大学
21.10.26	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:大阪大学
21.11.9	幹事会【回議】	第3回総会における加盟校のFD活動の報告会の開催依頼について	
21.11.11	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:京都光華女子大学
21.11.13	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:龍谷大学
21.11.25	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会(大学/短期大学(部)併設校)申し込みについて	◆短期大学との1校化:大阪樟蔭女子大学/大阪樟蔭女子大学短期大学部
21.12.4	幹事会【回議】	立命館大学FD支援担当嘱託講師の募集について	
21.12.16	(全会員校)	関西地区FD連絡協議会第3回総会の開催について(事前案内)	
22.1.21	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催:京科大学
22.1.28	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申し込みについて	◆新規入会:大阪観光大学(4/1付)
22.2.12	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛:甲南大学
22.2.15	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会主催「初任者研修担当者ワークショップ」の共催依頼について	◆共催:京科大学
22.4.9	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会(第4回)開催	会場:京科大学本部棟大会議室 ◆平成21年度活動報告案について ◆平成22年度活動方針案について ◆平成21年度決算案について ◆平成22年度予算案について ◆次期幹事校・監査役の選出について ◆その他
22.4.24	総会	関西地区FD連絡協議会第3回総会開催	

FD情報支援WG活動報告・来年度の活動方針案

勝山貴之（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、溝上慎一（京都大学）

1. 2009年度の活動と反省

□ 講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援の活動

・**利用実績**について 2008年度4件だった利用実績が、2009年度は15件へと増加した（表参照）。担当者の負担を考えると、この程度の数が適当であり、今年度もこの程度の実績を確保することに努めたい。

・**課題** 利用実績（表）を見てわかるように、広義のFDで情報提供を求められるケースが多く、相談内容が多様である。また、多少は人柄や人物的な印象・評価も考慮して紹介をしなければならないことを含めると、情報支援WGでもっている情報量は決して多いとは言えない。利用者のニーズにできるだけ応えていくためにも、FD関連のさまざまなテーマにもとづいた専門家・関係者の情報を日常的に収集していくことが求められる。予算的・時間的なものも含めて、この点最大の課題である。

・**留意点** これまで同様、できるだけ関西FDの参加校の相互貢献、相互情報交換となるような情報支援をおこなう。

利用実績

1	0501-2009	京都女子大学	FD研修の仕方、情報支援提供のしくみについて
2	0501-2009	関西福祉科学大学・ 関西女子短期大学	「初年次教育(スタディスキル)」講師
3	0508-2009	大阪経済大学	GPAについて
4	0528-2009	甲子園大学	兵庫県下で招かれているFD講師
5	0611-2009	大阪国際大学	学士力に関すること
6	0715-2009	大阪商業大学	厳格な成績評価について
7	0717-2009	藍野大学	初年次学生に対する取り組み
8	0723-2009	近畿大学	FDとは何かーその意義と価値
9	0912-2009	京都教育大学	教員養成大学におけるFD活動、学生を育てる視点
10	0923-2009	近畿大学	初年次教育
11	0925-2009	滋賀医科大学	授業評価に関するFD
12	1019-2009	京都大学	キャリア教育
13	1207-2009	兵庫大学	学士家庭教育の背景・目的
14	1224-2010	大阪歯科大学	教育学・教授法の基礎
15	0119-2010	奈良女子大学	大学教育におけるPDCAの実際

□ 広報について

年度始めの総会、年2回発行の『ニューズレター』、関西FDウェブサイトで、FD情報支援の活動を紹介している。依頼件数も担当者の負担から考えて適当なので、このかたちで広報の充実に努めていきたい。

□ 情報提供に関するルール作り（2008年11月作成）

更新せず、現在に至る。利用者の参考のために再掲しておく。

- (1) 上記の推薦について、関西 FD は責任をもちません。依頼者は上記の情報を参考にして、講師の所属する大学、講師の活動を HP や著書等で簡単にでも調べ、最後の依頼には自己責任をもっておこなってください。
- (2) 講演内容、結果についても、関西 FD は責任をもちません。
- (3) 推薦した先生に依頼をされるときには、「関西地区 FD 連絡協議会から推薦を受けた」とはお話にならないで下さい。あくまで、依頼者の希望としてご依頼をお願いします。
- (4) 推薦講師のメール等は個人情報ですので、教えて差し上げられません。依頼に関しては大学の代表電話等を調べてご依頼ください。

2. その他

本年度はじめに、情報支援 WG のメンバーが一人交代したので、情報共有・提供の体制を確認していくところから本年度の作業をはじめたい。

以上

FD 共同実施 WG 活動報告・活動方針案

1. FD 共同実施 WG の目的と組織体制

FD 共同実施 WG は、初任者研修の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行う。FD 共同実施 WG2009 は、大阪大学（常任幹事校）、関西学院大学（幹事校）、京都大学（代表幹事校）（以上 FD 共同実施部）、畿央大学、京都文教大学、滋賀県立大学、びわこ成蹊スポーツ大学、平安女学院大学、立命館大学、龍谷大学の 10 大学で構成される。

2. 2009 年度の活動報告

2-1. WG の拡大

2009 年 6 月 29 日開催の FD 共同実施部打ち合わせ会議を実施し、新たに WG 加盟大学を募ることを決定した。ML にて募集をかけた結果、畿央大学、京都文教大学、滋賀県立大学、びわこ成蹊スポーツ大学、平安女学院大学、立命館大学、龍谷大学の 7 大学から参加申し込みがあり、WG が 10 大学に拡張した。

2-2. FD 共同実施 WG 研究会 2009 の開催

初任者研修の共同企画・共同実施に向けて、以下の 3 回の研究会をおこなった。

【第 1 回(2009/8/12 於:京都大学)】

〈参加校〉大阪大学、関西学院大学、畿央大学、滋賀県立大学、平安女学院大学、立命館大学、京都大学から 16 名が参加。

〈プログラム〉

- | | |
|--------|---|
| 14:00～ | 参加者自己紹介・ FD 共同実施 WG 活動計画について |
| 14:20～ | 新任教員研修プログラムの基準枠組みについて
(講師)
国立教育政策研究所総括研究官 川島啓二先生
新潟大学准教授 加藤かおり先生 |
| 15:30～ | 質疑応答 |
| 16:00～ | 情報交換会 |

〈研究会の内容〉

川島啓二先生(国立教育政策研究所)

「大学教育改革の文脈から見た『基準枠組み』」

概要：現在の日本の大学教育改革の文脈や FD の展開について、また現状において求められる大学教員の専門性、大学教育や FD のあり方についての情報提供。

加藤かおり先生(新潟大学)

「基準枠組みを用いた新任 FD プログラム開発支援」

概要：国立教育政策研究所研究プロジェクトの一環として行われている新任 FD プログラム開発支援 WG のこれまでの活動と、実際に作成された初任者研修プログラムの基準枠組みの紹介(当日配布された基準枠組みについては資料 1 を参照のこと)。

議論

- 基準枠組みの理論的背景や具体的事例、枠組みを活用・運用することのできる人材とはどのような者であるのか、また、実際の初任者研修においてこの基準枠組みをどのように用いればよいのか。

【第 2 回(2009/10/12 於:大阪大学)】

〈参加校〉大阪大学、関西学院大学、畿央大学、京都文教大学、びわこ成蹊スポーツ大学、立命

館大学、龍谷大学、京都大学から 18 名が参加

〈プログラム〉

- 13:00～ 会場校挨拶 大阪大学・大学教育実践センター長・工藤眞由美
WG 代表挨拶 大阪大学・山成数明
参加者自己紹介
- 13:40～ FD 共同実施 WG 活動計画について
京都大学・田口真奈
- 13:45～ 山形大学の初任者研修について
(講師)
山形大学 高等教育研究企画センター教授
小田隆治先生
- 14:45～ 大阪大学の初任者研修について
大阪大学・服部憲児
- 14:55～ 関西学院大学の初任者研修について
関西学院大学・矢倉達夫
- 15:05～ 両プログラムへの小田先生からのコメントならびに全体ディスカッション
- 16:00～ 次回 WG 研究会テーマについて

〈研究会の内容〉

小田隆治先生(山形大学高等教育研究企画センター)

「山形大学の初任者研修－私的展望を含めて－」

概要：山形大学や山形大学が中心となった“樹氷”や“FD ネットワークつばさ”といったネットワークの FD の理念や実際の内容の紹介。

議論

- 自校教育の重要性の再確認と、自校教育からどのように研修を発展させていくのかについて考える必要性。
- 大規模ではない大学では研修を行うことのできる人材が少ないため、ネットワークが重要になるということ。
- 研修方法と研修内容のズレをどのように考えるのか(アクティブラーニングの重要性を、講義形式で行うなど)。

【第3回(2009/12/1 於：関西学院大学)】

〈参加校〉大阪大学、関西学院大学、京都文教大学、びわこ成蹊スポーツ大学、立命館大学、龍谷大学、京都大学から 14 名が参加

〈プログラム〉

- 13:00～ 参加者自己紹介
- 13:05～ FD 共同実施 WG 活動計画についての確認
京都大学・田口真奈
- 13:10～ これまでの研究会の振り返り
京都大学・半澤礼之
- 13:20～ 初任者研修共同プログラムの参考情報の共有
- 1) 基準枠組みについて
京都大学・半澤礼之
 - 2) 海外の事例について
京都大学・田口真奈、びわこ成蹊スポーツ大学・吉田政幸
 - 3) 関西学院大学の初任者研修について

関西学院大学・矢倉達夫

4) 立命館大学の取り組みについて

立命館大学・安岡高志・井上史子

14:20～ ディスカッション：共同実施すべき初任者研修プログラムとは

15:00～ 初任者研修担当者ワークショッププログラム案、事後アンケート案

京都大学・半澤礼之

15:10～ ディスカッション：初任者研修担当者ワークショップの進め方について

15:30～ ディスカッション：今後のWGの在り方について

〈研究会の内容〉

- 2010年度の活動予定については、大阪大学や関西学院大学といった幹事校の初任者研修を見学し、そこから2011年度の初任者研修共同実施に向けたコンテンツ作りをおこなっていくことが確認された。
- 2011年度より実施される初任者研修の共同実施の内容について、具体的な内容は2010年度の活動の中で決定していくことが確認された。形式としては関西地区FD連絡協議会で大きな初任者研修を一度行うこと、また、それで十分ではない点については、幹事校を中心とした大規模校が自校の初任者研修の一部を公開し、他校の初任者を受け入れることが検討課題とされた。

2-3. 初任者研修担当者ワークショップの実施

2010年3月17日に第4回関西地区FD連絡協議会主催イベント「初任者研修担当者ワークショップ」を実施した。プログラムは以下の通りである。

12:30-受付開始

13:00-開会の挨拶

共催校代表 京都大学 田中每実/WG代表 大阪大学 山成数明

13:05- 共同実施 WGの活動報告

京都大学 田口真奈・半澤礼之

13:20-事例報告

13:20- 京都大学の PFF(Preparing Future Faculty)プログラム

京都大学 田口真奈

13:30- 大阪大学共通教育の初任者研修

大阪大学 山成数明

13:40- 関西学院大学新任者研修

関西学院大学 矢倉達夫

13:50- 新任教員を対象とした実践的FDプログラムの開発と試行

立命館大学 井上史子

14:05- アメリカの大学の初任者研修：フロリダ州立大学の事例

びわこ成蹊スポーツ大学 吉田政幸

14:20- 休憩・移動

14:30- グループ討論：自校の初任者研修の取り組みについて、その現状と課題

(ファシリテーター：WGメンバー)

16:00- 休憩・移動

16:15- グループ討論の発表(各グループ代表)

16:30- 全体討論：どのような初任者研修を共同実施するのか

17:20- 共同実施 WGの今後の展望

17:40- 情報交換会

初任者研修担当者ワークショップには21大学から39名の参加があり、参加者の全体満足度は5点満点で4.1(31名から回収)であった。その主な理由は以下のとおりである。

- ・異なる規模の大学間で自由に討論できたところ
- ・他大学の初任者研修の事例を知ることができた
- ・色々な情報が得られ、関西FD連絡協議会の活動内容が知れたことがよかった。「初任者研修」のイメージが新任教員のオリエンテーションというイメージで考えていたが、FD全体を扱っていることがわかった。本学で今年度実施するプログラムの参考になった。時間が短かったなのでその点が少し・・・。
- ・自学に取り入れることのできる内容について、ヒントと様々に考えるきっかけを頂きました。関西FDは共同してできる事業を追及している、そのような理念の活動であるということを理解したことです。
- ・他大学の研修会に参加したい
- ・内容がありきたり。グループディスカッション前に答えは出ている。しかし、参加者同士の情報交換は役立つ。

3. 2010年度の活動方針案

3-1. FD共同実施WG研究会2010の開催

初任者研修の共同企画・共同実施に向けて、FD共同実施WG研究会2010を行う。前半3回は、FD共同実施部構成大学(大阪大学、関西学院大学、京都大学)の新任教員研修・プレFDの参観を行い、事後に共同実施可能なプログラム内容について検討を加える。後半2回については2011年度より共同で実施する初任者研修のプログラム内容と広報について検討する。

第1回目：大阪大学(3月25日)*予算は2009年度

第2回目：関西学院大学(6月15日)

第3回目：京都大学(8月5日)

第4回目：未定(10月)

第5回目：未定(12月)

3-2. 初任者研修相互参観の機会提供

自大学の初任者研修・新任教員研修の公開が可能な大学の情報を収集し、加盟大学に情報提供・相互参観の機会を提供する。現在公開が決まっているのは滋賀県立大学(4月2日、5月7日、6月4日、7月9日、8月6日)である

3-3. 初任者研修共同実施に向けたWGの拡大

新たにFD共同実施WG2010を構成する。特に新任教員研修・プレFDの相互参観の機会を通じてWGの拡張をはかる。

3-4. 公開講演会の共同実施

関西学院大学新任者研修において公開講演会を開催する。内容は以下の通りである。

2010年5月15日(土) 10:10-12:00

講演タイトル「高等教育の意義と解決すべき問題点」

講師：絹川正吉 元国際基督教大学学長

以上

FD 連携企画 WG 2010 年度活動報告・活動方針案

2010.4.9 幹事会

立命館大学、関西大学、神戸常盤大学、京都大学

1. FD 連携企画 WG の目的と組織体制

1-1. 目的

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ（問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など）を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントではなく、継続的に情報交換しながら、協働的に教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティ形成を支援する。テーマの一般化を急がず、できるだけ各大学のローカルティに根ざしたコミュニティとなるようにする。また、できるだけ、まだ組織化されていないテーマを掘り起こすようにする。

1-2. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ（WG）は、2010 年 4 月現在、以下の大学で構成されている（敬称略）。

◇FD 連携企画部

- ・立命館大学（安岡高志）・・・責任校
- ・関西大学（池田勝彦）
- ・神戸常盤大学（江上芳子）
- ・京都大学（松下佳代、石川裕之）・・・事務局

◇関西 FD パイロット校

- ・神戸常盤大学（江上芳子）
 - ・藍野大学医療保健学部理学療法学科（平山朋子）
 - ・京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科（須川いづみ）
- ※パイロット校に認定期間を設ける（3年間・更新可）

◇FD 連携企画 WG

上記の FD 連携企画部、および関西 FD パイロット校の計 6 校

2. 2009 年度活動報告

2-1. ワークショップの開催

FD 連携企画ワーキンググループでは、2009 年 12 月 12 日（土）に関西大学千里山キャンパスにおいて、第 3 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント「ワークショップ：思考し表現する学生を育てる—書くことをどう指導し、評価するか？Ⅱ—」を開催した（共催：関西大学教育開発支援センター）。本 WG では、昨年度同じテーマでシンポジウムを開いたが、本年度は、昨年度参加者の「もう少し議論を深めたい」「時間をもっとゆったりとってほしい」という要望に応えるためにワークショップをもつことにした。以下に、このワークショップのプログラム、当日の状況、アンケート結果を報告する。

◇プログラム

13:30～14:40

開会あいさつ

市原 靖久（関西大学 副学長）

田中 每実（関西地区 FD 連絡協議会 代表幹事校代表）

13:40～14:30

小講演「書くための問いを生み出すことを支援する」

鈴木 宏昭（青山学院大学教育人間科学部 教授）

14:30～15:00

事例紹介「添削から創作へー関西大学全学共通科目「文章力をみがく」ー」

三浦 真琴（関西大学教育推進部 教授）

15:15～16:45

グループワーク

16:45～17:30

全体討論

17:30～18:00

総括コメント

井下 千以子（桜美林大学心理・教育学系 教授）

◇当日の状況

参加者は会員校から 34 名、非会員校から 17 名の計 51 名であった。中には、東京や福岡など遠方からの参加者もあった。本テーマへの関心の深さがうかがわれる。

第 I 部では、安岡高志氏（立命館大学、本 WG）による司会のもと、小講演と事例紹介がおこなわれた。青山学院大学の鈴木宏昭氏による小講演「書くための問いを生み出すことを支援する」では、EMU（*5つの感情タグ [へえ、そうそう、ムカッ、??、ここ大事] を用いて資料の気になる部分に下線を引きコメントを書き込んだり、



グループメンバーとコメントを共有し、互いにコメントし合うことができるツール）によるマーキング（下線引き）とタグづけ（感情タグ）を活用した実践や Blog を利用した協調学習の実践が報告され、問題設定およびそのプロセスを認知的・感情的に支援することの重要性と、協調学習がそれらを促進する可能性について示唆された。続いて、関西大学の三浦真琴氏による事例紹介「添削から創作へー関西大学全学共通科目『文章力をみがく』ー」では、自身の授業実践の報告を通じて、“What to write”、“For whom to write”、“Why to write”の重要性と、

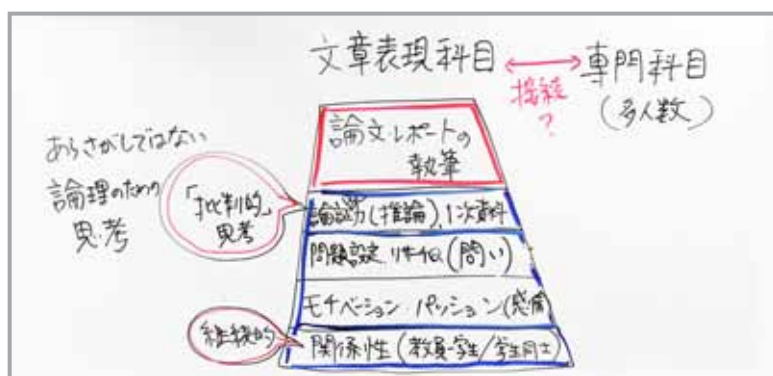


学生による「創作活動」を通じたライティング教育の可能性が提示された。

河崎、石川（京都大学、本 WG）によって昨年度のシンポジウムのまとめとグループワークの進め方についての説明がなされた後、第Ⅱ部に入った。第Ⅱ部では、参加者が3つの教室、あわせて9つのグループに分かれてグループワークがおこなわれた。グループワークは、持参した資料にもとづいて各自が自身の実践を紹介し、それをグループで共有し議論した後、さらに3つの各グループから、書くことの指導と評価についての論点を報告し議論するという形で展開した。



第Ⅲ部では、松下（京都大学、本 WG）による司会のもと、グループワークで出た論点等について各教室代表が発表し、それをふまえて参加者全員による全体討論がおこなわれた（下図は、教室3の発表で使われた図）。



全体討論では特に、「what (何を書くか; 内容) と how (どう書くか; 形式) の関係」、「書くことと考えること、読むこととの関係」についての議論が白熱した。「what と how の関係」に関しては、「両者は単純に二分できるものではなく、車の車輪のように共に必要である」（鈴木宏昭氏）との認識を踏まえつつ、「指導にあたってはどちらに重きをおくかという選択にせまられる」、「学生のタイプによって、how を教わることで what の深まりへとつながる場合もあればそうでない場合もあるのではないか」、「求められる what は大学によって異なってくるのではないか」といった意見が交わされた。さらに、どういった what や how が望ましいかを判断するには、「誰に対して書くのか」（一般的な他者か学問の蓄積としての他者か等）もまた問う必要があるとの認識が得られた。また「書くことと考えること、読むこととの関係」については、鈴木氏の小講演にあったように、「書くこと」の前に感情を喚起するようなものを「読む」ことが「考えるに値



する問題を発見すること」、「書くこと」へとつながっていくなど、一般的にいう「考える」行為と「書くために考える」、「書きながら考える」といった行為とを分けてとらえることで、「思考・表現」指導のあり方についての議論をよりクリアに展開できるのではないかとの展望が得られた。

その後、本ワークショップの締めくくりとして、桜美林大学の井下千以子氏より、「ライティング教育と Curriculum Development—学びの先を見通す力—」と題して今回のワークショップに対する総括コメントがおこなわれた。今回のワークショップでは、ライティング教育において、①いま、どんなことが問題となっているのか、②どんな授業が展開されているのか、③学生の反応、各大学の現状、といった点が明らかになったが、それと同時に、カリキュラム全体にわたって、初年次あるいは学習技術だけでなく、専門教育につなげ自己の発達も視野に入れた総合的な学士課程カリキュラムとしてライティング教育を考えていくことの必要性、すなわち「学びの先を見通す力」をいかに涵養していくかという課題が提起された。



◇アンケート結果

「ワークショップへの参加満足度」、「プログラムの前半（小講演・事例紹介）の有意義度」、「プログラムの後半（グループワーク・全体討論・総括コメント）の有意義度」を5件法（1：まったく満足していない/有意義ではなかった～5：非常に満足している/有意義だった）によりたずねたところ、それぞれの評定平均は4.3、4.4、4.2であった（回答者39名）。全体的に参加者の満足度は高く、各プログラムの内容も有意義であったとの評価が得られた。

ワークショップに満足した理由をたずねたところ、主に「具体的な事例に基づく各大学の実践状況を知るとともに、理論的な枠組みを知ることができた」ことが挙げられた。また、プログラムについて有意義であると感じた理由としては、「小講演と事例紹介で紹介されているアプローチが対照的でバランスが取れていた」、「グループワークではライティングに関する多様な意見を知ることができた」といった回答が得られた。さらに、ワークショップ参加による最大の収穫についてもたずねたところ、「『大講演』形式でないFDの理想的な雰囲気になれることができたこと」、「グループワークで各自の資料を持参することで、より具体的な話をすることができたこと」、「自分自身の思考のクセ—当たり前だと思っていたことが実はそうではない—という気づきを得たこと」など、本ワーキンググループの活動趣旨に適った評価が得られた。

最後に、「今後に向けて改善した方がいいと思われる点」をたずねたところ、グループワークに関する意見が多く寄せられた。特に、グループ討論の時間が短かったことや、大学間の格差があり、「思考し表現する」のうち「思考」にまで議論が発展しない場面があったことなどから、「時間をより長くとり、主題・問題点を限定する」といった提案が出された。

以上のアンケート結果をふまえて、2010年度も同じテーマでワークショップを継続したいと考えている。

2-2. 関西 FD パイロット校の活動

- ・ 藍野大学：学生の学びの評価とリフレクション（OSCE-R）の実施と改善を通じての FD
*FD の成果を Web 上に公開し (http://www.kansai-fd.org/activities/reports/jhsg_es.html)、第 16 回大学教育研究フォーラムでも紹介した。
- ・ 京都ノートルダム女子大学：大学生調査にもとづく教育改善
*秋に調査を実施し、現在分析中。

3. 2010 年度活動方針(案)

3-1. ワークショップの開催

- ・ テーマ：「思考し表現する学生を育てるⅢ」（*サブタイトルは検討中）
（第●回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント）
- ・ 日時：2011 年 1 月 8 日（土）予定
- ・ 場所：京都大学
- ・ タイムテーブル
10:30-10:40 あいさつ
10:40-11:40 A：講演（東京海洋大学・大島弥生先生）(案)
11:40-12:30 グループワーク（アイスブレイキング+自己紹介）
12:30-13:30 昼食会・名刺交換会
13:30-14:30 B：事例報告
B1：関西国際大学・児玉英明先生（案）
B2：藍野大学・堀 寛史先生（案）
14:30-17:00 グループワーク（実践交流、ワークショップ）
17:00-18:00 全体会

3-2. コミュニティ形成とリソースの蓄積

同一のテーマで 2008 年度はシンポジウム、2009 年度はワークショップを行ってきたが、まだコミュニティを形成するに至っていない。今年度は、オンライン FD 支援システム MOST (Mutual Online System for Teaching and Learning) なども利用しながら、コミュニティ形成に力を入れたい。まずは、これまでのシンポジウムとワークショップの参加者にメールを送り、コミュニティへの参加を呼びかける（夏までに）。

また、ワークショップで各大学から提供された資料については、参加者間で共有リソースとして使えるように電子化し、関西 FD の HP 上に掲載する（ワークショップ後）。これについては、研究 WG による「授業評価アンケート事例集」(http://www.kansai-fd.org/activities/reports/jhsg_es.html) が参考になる。

3-3. 関西 FD パイロット校の活動

- ・ 引き続き、各大学での FD を支援する。なお、パイロット校の認定期間を 3 年間とし（更新可）、なるべく 3 年間でまとまった成果が出るように支援する。

4. 予算**4-1. 支出**

- ・ワークショップ 414,600 円
 - ・その他 50,000 円
- 計 474,600 円 (内訳は別紙参照)

4-2. 収入

- ・ワークショップ (参加費)
会員校 0 円 (+ 弁当代実費)、非会員校 1,000 円 (+ 弁当代実費)

広報 WG 活動報告・活動方針案

1. 広報 WG の目的と組織体制

1-1. 目的

広報 WG は、本協議会に関する広報業務をおこなう。具体的には、①ホームページの維持・管理、②ニュースレターの発行（年2回）、③メーリングリストの管理、を担当する。また、次年度総会において「FD 活動の報告会」を FD 情報支援 WG と共同で試行的に実施する。広報 WG は主にポスター発表と、発表原稿およびこれに関連する会員校間の相互評価をオンラインで蓄積・共有するための支援を担当する。

1-2. 組織体制

広報部は以下のように構成されており、2010年4月現在、部とWGの構成員一致している（敬称略）。

- ・大阪市立大学（矢野裕俊）・・・責任校
- ・和歌山大学（菊川恵三）
- ・京都大学（酒井博之、藤本夕衣、笹尾真剛）・・・連絡担当

2. 2009 年度活動報告

2-1. ニュースレターの発行

ニュースレターを年2回程度発行する計画となっているが、2009年度は、7月に第二号（編集責任者：矢野裕俊）、12月に第三号（編集責任者：菊川恵三）を発行した（図1）。800部作成し、全会員校および原稿執筆者宛に送付した。非会員校についても入会を促すため各号1部を送付した。また、PDF版を協議会ウェブサイトへも掲載し、一般公開している。

本年度は、協議会が実施するイベント等の活動報告のほか、会員校間の情報共有を促進させるため、会員校におけるFDの取り組み紹介を充実させてきた。第2号では第2回総会の報告に加え、大阪私立大学、関西大学、京都精華大学、関西学院大学、流通科学大学より、第3号では京都産業大学、滋賀大学より活動報告記事を作成頂いた。また、第3号では研究WGの活動に焦点を当て、主に研究サブグループの活動紹介をおこなった。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

関西地区FD連絡協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなっている。本年度は、研修マトリックスおよび研修カレンダーの設置、国内のFDネットワーク組織のリンク集の作成などをおこなった。

また、幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを適宜作成、更新し、管理している。



(a) 第2号 (b) 第3号

図1 関西地区FD連絡協議会 ニュースレター



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

2-3. MOST 講習会の共催について

2010年度総会にて計画されている「FD活動の報告会」におけるポスター発表およびパネルディスカッションの発表原稿の作成と会員校間での蓄積、共有を、京都大学で構築した大学教員のための教育研修システム「MOST」(https:online-tl.org)を活用しておこなうことが提案されており、システム利用のための講習会を3月17日に共催としておこなった。なお、「FD活動の報告会」は、会員校相互の組

織的 FD 活動の情報交換を目的として、FD 情報支援 WG と広報 WG が合同で行うものである。プログラム案を資料として示す。

3. 2010 年度活動方針案

3.1 ニュースレターの発行

本協議会のニュースレターを 2 度発行する。ニュースレターについては、2009 年度に引き続き、関西 FD における取り組み報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。

・第 4 号（7 月頃）

内容（案）：2009 年度総会報告、協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

※「FD 活動の報告会」の成果を冊子にして、同封する予定

・第 5 号（1 月頃）

内容（案）：協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

3.2 ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

2009 年度に引き続き、協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理をおこなう。

ウェブサイトについては、本協議会設立から 2 年が経過し、サイト内のコンテンツが充実してきた一方、授業評価アンケート事例集など、会員校が適宜参照可能にしておくべき資料へのアクセス方法が分かりにくいといった声も聞かれた。また、全会員校宛のメーリングリストは、現在主に事務局から協議会の関連情報を配信しているが、会員校内の FD イベント告知、教職員公募情報、その他会員校で共有すべき情報などについて、会員校側から自由に情報発信が可能なチャンネルを持っていない。以上を踏まえ、ウェブサイトのコンテンツの整備と、会員校に所属する教職員が自由に情報発信可能なメーリングリストまたはそれに類する機能を追加する。

3.3 FD 活動の報告会の試行的実施

2010 年度総会において、「FD 活動の報告会」が実施される。広報 WG は主にポスター発表と、発表原稿およびこれに関連する会員校間のピアレビューをオンラインで蓄積・共有するための支援をおこなう。後者を実施するため、京都大学で構築した MOST (<https://online-tl.org>) 内に会員校の教職員がアクセス可能なオンラインコミュニティを立ち上げ、協議会ウェブサイトとの連携を図る。会員校間の相互評価については、冊子を作成し、会員校に配布する。

以上

MOST 講習会

日 時：2010年3月17日（水）14:30～17:00（終了後、情報交換会）
場 所：京都大学吉田南総合館 北棟 共北 24CALL 教室（下記の会場地図参照）
主 催：京都大学高等教育研究開発推進センター
共 催：関西地区 FD 連絡協議会 広報 WG

概 要

来る4月24日開催の関西地区 FD 連絡協議会第3回総会では、会員校の FD 活動に関わる報告を、ポスター発表、パネルディスカッションの形式で試行的に実施することが計画されています。会員校の FD 活動をオンライン上で共有・蓄積するために、ポスター発表の原稿は“MOST”と呼ばれるオンライン・システム（<https://online-tl.org/>参照）で作成するとたいへん便利です。本講習会は、関西 FD 会員校の教職員を対象に、総会での発表原稿を実際に MOST を利用して作成するものです。本協議会会員校に所属する教職員の方はどなたでも参加できます（ただし1法人につき2名まで）。ふるってご参加下さいませようお願いします。
※MOST（Mutual Online System for Teaching & Learning : モスト）は、大学教員の教育研修のためのオンライン支援システムです。

参加条件：関西地区 FD 連絡協議会会員校に所属する教職員。4月24日開催の本協議会総会において、ポスター発表を希望する会員校を優先します。定員は30名。

※PC操作をおこないますので、実際に MOST を利用される教職員のご参加を推奨します。

※無線 LAN が利用可能ですので、できましたら各自ノート PC をご持参下さい。

講習会参加にあたって：参加される方は、講習会当日、「発表原稿に用いる予定のテキストや図表などの電子データ」をご持参下さい。事務局でもテスト用の画像やテキストを準備しますが、ポスター作成を効率的に行うため、できる限りデータをご持参下さい。

また、可能であれば「取り組みに関連する写真データ」「貴学／貴部局のロゴマーク」「MOST 登録時の顔写真（任意）」もご持参下さい。

※参考（作成原稿イメージ）：<https://online-tl.org/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=33695268103569>

参加費：無料（ただし、情報交換会に参加される方は別途実費 2,000 円を頂きます）

参加方法：下記の関西地区 FD 連絡協議会ウェブサイトから、「FD 活動の報告会」の申込みフォームをご利用下さい。

申込みフォーム：http://www.kansai-fd.org/most_form.html

※MOST 講習会のみ参加を希望される方は、以下の問い合わせメール宛に個別にご連絡下さい。講習会の内容はポスタ

Ⅲ-1-1. 資料6

一原稿作成向けに構成しておりますので、その点ご了解下さい。

問い合わせ先：info@kansai-fd.org（担当：酒井）

プログラム

- 14:00 受付開始
- 14:30 挨拶 田中每実（京都大学高等教育研究開発推進センター
・関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校代表）
- 14:35 挨拶 矢野裕俊（大阪市立大学・関西地区 FD 連絡協議会広報 WG 責任校代表）
- 14:40 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明
酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター）
- 14:50 スナップショット[※]の作成事例紹介 平山朋子（藍野大学）
- 15:05 操作説明
- 15:30 参加者によるスナップショット作成
- 17:00 終了
- 17:40 情報交換会（同日に行われる初任者研修担当者ワークショップと合同で実施します）
場 所：百周年時計台記念館 国際交流ホール II（18:30 終了）

※「スナップショット」とは MOST 内の KEEP Toolkit を利用して作成したコンテンツを指します

会場地図：吉田南総合館 北棟 共北 24CALL 教室



以上

研究ワーキンググループ(WG)報告

研究ワーキンググループ(WG)は、共同して研究すべき課題に関して、研究サブグループ(SG)などを設置し、共同研究を企画・推進する。研究WGは、各研究SGの参加者の中から主査を指名し、活動が円滑に進むようにサポートする。共同研究の成果は、関西FDのワークショップや各種フォーラム、ホームページ(HP)などで広く共有を図る。現在、研究WGは、責任校を神戸大学とし、WGの運営を管理・支援する「研究部」及び「研究SG主査校」の神戸大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部、京都大学、大阪成蹊大学から構成されている。

2009年度は、昨年度に続き、「授業評価研究SG」(主査校：神戸大学)、「出欠確認研究SG」(主査校：大阪成蹊大学)、「Web公開授業研究SG」(主査校：京都大学)において活動を行った。WG及び各SGの目的や活動内容については、関西地区FD連絡協議会のWGに関するホームページ(<http://www.kansai-fd.org/wg/>)からアクセスできるようになっている。

以下、各SGの本年度の活動内容の概要を報告する。

1. 授業評価研究SGの活動

授業評価研究SGでは、2009年6月に第1回会合が開催された。会合にはSGに所属する19大学22名の参加があり、授業評価研究の現状と今後の課題について活発な議論が交わされた。また、昨年度、関西地区FD連絡協議会で実施したFD活動に関する調査結果を基に、各大学における授業評価アンケートの活用状況に関する結果をまとめ、その概要とアンケート事例集を公表した。

1-1. 会合議事

日時: 2009年6月16日(火) 16:00~18:00

場所: 京都大学 吉田南1号館 共106室

1. 挨拶

- ・ 授業評価研究SG主査である米谷淳教授(神戸大学)より、挨拶が行われた。
- ・ 大塚雄作教授(京都大学)より、関西FD各WGの紹介と、研究WGのSGについて説明があった。
- ・ 各出席者から自己紹介が行われた。

2. 昨年度の活動報告

- ・ 公開研究会「授業評価からFD評価へ」(2009年3月19日)の報告
 - 大塚教授より、2009年3月19日に行われた公開研究会の様子、各話題提供の内容について資料にそって報告があった。
 - フロアから活発な意見が出た(既に授業評価をやっているところとこれから取り組むところという二極化、何のために授業評価をするのか、FDをどうとらえるか、ティーチング・ポートフォリオをどう積み重ねていくか、など)
- ・ 授業評価アンケート事例集の公開と関西地区における授業アンケートの活用状況
 - 昨年実施した調査において、回収できた授業評価アンケート106部をHPにアップした。
 - 「関西地区における授業アンケートの活用状況」について説明があった。各大学の授業アンケートに関する、1.大学独自の特徴、2.授業改善のための組織的活用、3.

授業改善以外の組織的活用について、いくつかの分類基準を取り上げ、概要について説明があった。

- ▶ 調査内容について、以下のような質問、コメントが挙げられた（成績との対応、結果の公表の範囲や方法、実施目的と活用方法の一貫性など）。
- ▶ 今後の研究課題として、教員評価との関係は、あらためて調査する必要があるのではないか。

3. 本年度の活動計画

- ・ 福永栄一准教授（大阪成蹊大学）より、本年度の活動計画「学生の携帯電話から回答入力させる授業評価アンケートの共同運用」について提案があった。
- ・ 携帯を利用すれば、コスト削減、情報の共有が容易になるなどの利点があり、FD 推進にもつながる。大学間で共同運用できれば、ノウハウ共有・蓄積にも役立つ。
- ・ 戦略 GP に申請中。しかし、2、3校であれば、大阪成蹊大学のシステムで十分対応可能なので、今年秋の大学の共同研究補助金（7月申請）の利用も検討中。
- ・ アンケート項目は紙で配り、入力は携帯でおこなうので、項目は大学の独自性反映できる。自由記述入力も可能。
- ・ ユーザー単位の利用や、ミニッツペーパーなど毎回の授業の理解度確認も視野に入れている。
- ・ 履修している学生しか回答することはできない。その場にはいない学生や遅刻者も特定できる。
- ・ その他、以下のような質問、コメントが挙げられた（項目や分析方法を統一した場合の活用法、大学として共同運用する場合のキャンパスマナー（教室では携帯電源切る）との兼ね合い）。

4. その他（自由討論）

- ・ 少人数クラス(大学院を含む)における授業アンケートの実施と、公表の仕方についての課題。
- ・ コアカリキュラムに関する授業アンケートの困難点。
- ・ アンケートの数字がよければいいとは思わない。そこから何を読み取るかが重要。



1-2. 授業評価アンケートに関する調査結果の公開

2008年度に関西地区FD連絡協議会・会員校ならびに関西地区の大学・短期大学を対象として、FD活動に関する調査を実施し、合計126校からの回答を得た。

調査の結果、多くの大学から実際に使用している授業評価アンケートの公開の許可を得ることができた。調査結果のまとめとして、以下の2つを公開している。

- ・ 「授業評価アンケート事例集」
 - ▶ (http://www.kansai-fd.org/activities/reports/jhsg_es.html)。
- ・ 「関西地区における授業アンケートの活用状況」
 - ▶ (http://www.kansai-fd.org/activities/reports/sg_20090622.html)

2. 出欠確認研究SGの活動

出欠確認研究SGでは、本年度は4回の会合と2回の授業アンケートの実施見学会を行った。以下、各会合の概要と見学会の参加者についてまとめた。

なお、本年度第5回目となる会合は2010年2月19日(金)、午後4時30分から午後6時まで、大阪大学中之島センターキャンパスイノベーションセンター内、大阪商業大学サテライト・キャンパス405号室にて、「関西医療大学における出欠管理と授業評価アンケートについて」をテーマとして開催予定である。

2-1. 会合の議事

(a) 第1回会合議事

日時: 2009年4月24日(金) 16:00~18:00

場所: 大阪商業大学 本館3階 会議室Ⅲ

参加: 大阪商業大学、大阪工業大学、大阪成蹊大学

1. 大阪商業大学における出欠確認の現状発表

資料に基づき、大阪商業大学における出欠確認の現状の説明があった。

2. 大阪成蹊大学より今年度の活動案が提示され、了承された

活動案概略

- ・ 会合を2ヶ月に1回のペースで開催する。
- ・ 大阪成蹊大学で、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を実施する。
- ・ SGおよび協議会参加校を対象として、携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用を呼びかけ、希望があれば使用し、その効果などを確認する。

3. 大阪成蹊大学より協議会総会での発表内容の報告があった

4. 大阪成蹊大学より本年度の共同研究に関する提案があり、検討することになった

5. 自由討論

大阪商業大学および大阪成蹊大学の報告等に関する質疑応答が行われた。

6. 次回研究会開催日程等の確認

日程: 6月26日(金) 午後16:30~18:00

場所: 大阪成蹊大学

発表: 大阪成蹊大学

(b) 第2回会合議事

日時: 2009年6月26日(金) 16:30~18:00

場所: 大阪成蹊大学 第二会議室

1. 幹事校挨拶

大阪成蹊大学宗像学長より挨拶があった

2. 新規会員紹介

京都文教大学と摂南大学が新規に会員となった

3. 大阪成蹊大学の報告

～大阪成蹊大学現代経営情報学部での携帯電話での出欠確認、授業評価アンケートの導入・運用経緯～

携帯電話での出欠確認、授業評価アンケートの特徴、他システムとの比較、2005年に前任校に導入した際のプロジェクトチーム構成、導入手順、システム導入での課題などが報告された。

4. 自由討議

携帯電話での出欠確認、授業評価アンケートをテスト使用するために開発業者に協力を依頼すること、テスト使用を普及させるための仕組み作り、予算獲得などについて意見交換された。

5. 次回研究会開催日程の確認

京都文教大学の携帯電話での授業評価アンケートの実施結果報告と決まった。10月に京都文教大学で開催するが、日程は8月以降に決定する。開催時間は16時で調整する。

(c) 第3回会合議事

日時: 2009年10月23日(金) 16:30~18:20

場所: 京都文教大学 常照館第一会議室

1. 会場校挨拶

京都文教大学人間学部 学部長の野口雅昭氏より挨拶があった。

2. 参加校・参加者紹介

7大学1機関 13名が順に自己紹介を行った。

3. 京都文教大学の報告

※携帯電話を使つての授業評価アンケートについて(資料あり)

パワーポイント資料に基づいて説明があった。

4. 携帯電話での出欠確認システム「i-MAS」のテスト使用状況の報告

(1) 京都文教大学

3名(FD委員)の教員が各自1授業テストしている。各授業規模は250人、80人、60。これまで3回出欠確認を行った。1回目は教員・学生ともに慣れていなかったもので、出欠確認に10分を要したが、2回目以降は使い方を学生同士で教えあうなど、トラブル無くスムーズに出欠確認ができています。

(2) びわこ成蹊スポーツ大学

個々の学生の全授業に関する出席状況が把握できるなど、テスト当初から非常に有効なシステムとして取組んだ。9月末に10名程度の教員で始めたが、1ヶ月たった今では、19名(専任教員44名から出欠が取り難い実技系の教員を除くと過半数を超えている)でテストしている。

「このシステムを使ってやるぞ!」という雰囲気ができており、携帯が苦手な先生は若い先生がサポートしている。

200人授業であれば10人程度、40人授業であれば2人ぐらいが携帯を使えない学生がいる。しかし、学生の乗りもよく「今日は2番かな? 5番かな」などと楽しみながら実施している。

(3) 大阪商業大学

11月2日より10名の教員でテスト使用を行う予定である。クラス規模は250名から50名まで。12月第2週目には携帯電話でアンケートを行う予定である。

5. 自由討議

京都文教大学の報告に関する質疑応答が行われた。

6. 次回研究会開催日程の確認

日時: 12月後半 16:00頃?~

場所: 追手門学院大学

※詳細は、追手門学院大学・中井隆氏より後日案内予定。

(d) 第4回会合議事

日時: 2009年12月18日(金) 16:30~18:30

場所: 追手門学院 大阪城スクエア 中会議室

1. 参加校・企業

6 大学 2 企業 12 名

2. 追手門学院大学の報告

追手門学院大学における出欠確認の現状について、以下の報告があった。

- ・ 出席確認システム導入の契機
- ・ 出欠確認の現状
- ・ 出席確認システム導入の背景
- ・ 出欠確認システム導入の趣旨
- ・ 期待される効果
- ・ 現在提案中の運用方法
- ・ これからの導入スケジュール
- ・ システム概要（IC カードシステムを利用したシステム）など

3. 青森共同計算センターの報告

i-MAS 試行稼働サーバ障害に関する以下の報告があった。

- ・ 障害発生から復旧までの経緯
- ・ 障害原因とその影響
- ・ 障害に関する考察（ふりかえり）
- ・ SLA に関する考察（SaaS 版 i-MAS 提供における課題）など

4. 自由討議

2 つの報告に関する質疑応答が行われた。

5. 新規参加校紹介

新規メンバーとなった関西医療大学の紹介と挨拶があった。

6. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時: 2010 年 2 月 19 日(金) 16:30~18:00

場所: 大阪商業大学 サテライト・キャンパス

発表: 関西医療大学

※会合終了後、5 校・2 企業 10 名で懇親会を実施した。

(e) 第 5 回会合議事

日時: 2010 年 2 月 19 日(金) 16:30~18:30

場所: 大阪大学中之島センター キャンパスイノベーションセンター内

大阪商業大学 サテライト・キャンパス 405 号室

1. 参加校・企業

6 大学 2 企業 12 名

2. 関西医療大学の報告

関西医療大学における出欠管理と授業評価アンケートについて、以下の報告があった。

- ・ 関西医療大学の紹介
- ・ 出欠確認の現状について
- ・ 授業評価アンケート現状について
- ・ 今後の出欠確認と授業評価アンケートの実施についての課題

3. 自由討議

報告に関する質疑応答が行われた。

4. 共同研究

大阪成蹊大学より、以下の来年度共同研究案が提示され、意見交換された。

◇連携（共同研究）について

- ・連携大学が共同でFDに取り組む
- ・連携大学が協力して授業評価アンケートに取組み次の共同研究を行う
 - 効率的なアンケートの集計方法
 - 効果的な分析方法
 - 集計・分析結果の分かりやすく適確な公表方法
 - 分析結果に基づいた授業改善推進方法
- ・連携校同士が相互に次の授業を参観する
 - 各連携校のアンケートの中で学生から高い評価を得た授業
 - 授業改善効果が著しい授業
- ・参観授業実施教員へインタビュー等を行い次の内容を明確にする
 - 高い評価を受ける理由
 - 改善を実現した理由
 - その授業の特徴
- ・教育効果を高める授業計画、授業モデル、教授法などを共同研究する
- ・研究成果を関西地区の大学に普及する
 - 関西地区FD連絡協議会（09/11/25 現在、129校）を通じて
- ・全国の大学へ普及させる

5. 平成22年度スケジュール案

大阪成蹊大学より、以下の来年度スケジュール案が提示され承認された。

◇関西FD研究WG 出欠確認研究SG 平成22年度スケジュール（案）

①会合・・・年4回のペースで開催する。

5月・9月・12月・3月：メンバー大学の事例発表他

②大阪成蹊大学で、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を実施する。

関西FD参加校を対象として、前期に2回携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を開催する。後期は、前期の状況を見て検討する。

1回目：6月、2回目：11月

期の間（授業8回目を目処に）授業評価アンケートを実施する。翌週の授業でその結果と対応を学生に回答する。この2週間の授業評価アンケートとその間の携帯電話での出欠確認を見学して頂く。

③携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用を検討する。

出欠確認研究SGメンバー及び関西FD参加校を対象として、携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用を呼びかけ、希望があれば使用し、その効果などを確認する。

④その他、必要に応じて、会合、見学会等を開催する。

6. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時：2011年5月21日（金）午後4時30分～午後6時

場所：未定

発表校：未定（会合終了後の懇親会で大阪商業大学と決まった）

*会合終了後、5校・1企業9名で懇親会を実施した。

2-2. 学生の携帯電話から回答入力する授業評価アンケート、出欠確認の見学会

(a) 見学会1

日時：6月15日（月）15:30～17:30、17日（水）14:30～16:00

15日は5校1企業7名、17日は3校5名、計8校1企業、12名が参加。

(b) 見学会2

日時：12月4日（金）14:40～17:00、8日14:30～16:30

4日は4大学6名の参加、8日は4大学1企業8名、計8大学1企業14名が参加。

3. Web 公開授業研究 SG の活動

Web 公開授業研究 SG では、本年度 1 回（9 月）の会合と 2 回の web 公開授業（6 月、12 月）を実施している。なお、第 2 回会合は、2010 年 3 月 2 日実施予定（於：京都大学）である。

3-1. 会合議事

(a) 第 1 回会合議事

日時: 2009 年 9 月 4 日（金）15:00～17:00

場所: 京都大学 吉田南 1 号館 1 共 23 教室

参加者: 横見宗樹（大阪商業大学）、渡辺幸重（畿央大学）、倉茂好匡（滋賀県立大学）、南木睦彦（流通科学大学）、田口真奈、酒井博之、笹尾真剛（以上、京都大学）（敬称略）

1. 参加者自己紹介

2. Web 公開授業の振り返り（2009 年 6 月実施分）

2.1 6 月 22 日～7 月 6 日「資源論」南木睦彦先生（流通科学大学）

2.1.1 授業者の感想

- ・ 授業改善に有用な情報を得ることはできた
- ・ 書き込みの確認と回答が大変であった
- ・ 公開期間終了後にまとめとして授業者がコメントをできるような機会があればよかった。

2.2.2 全体討論

- ・ Web 公開授業の活用方法：コミュニティをベースとした公開授業システムとしての位置づけ
- ・ 授業ベースで議論をするか、コミュニティベースで授業の議論をするか。
- ・ システム面での不具合とアクセス、投稿への影響（映像視聴、文字化けなど）
- ・ 授業の内容に関する議論・投稿の是非
 - 専門性の違いとそこでの授業の共有について
 - 授業内容と手法の関係性について
- ・ 教員・学習者の学習環境の改善について
- ・ 特定コミュニティを対象とした Web 公開授業の導入の可能性
 - e.g.: 工学部・商学部などの科目、大講義での授業、初年次教育、板書の書き方など
 - どのような授業 を公開授業とするか
 - Web では議論が促される授業がある方がいい
 - 会員間で課題が共有されていることが重要

3. 2009 年度活動スケジュール

3.1 2009 年度第 2 回 Web 公開授業の実施（12 月予定）

- ・ 倉茂好匡先生（滋賀県立大学）（11/4 講義分）
- ・ 授業名「物理学 I」（1 年生対象）
- ・ 公開授業テーマ「基礎物理の授業の中の演示実験・演示実験（デモンストレーション）を用いていかに学生の興味を引きつけられるか-」

3.2 2009 年度第 2 回 SG 会合の開催（2010 年 2～3 月実施予定）

3-2. Web 公開授業

(a) 「資源論」南木睦彦先生（流通科学大学）

テーマ: 大衆化した文系私学の大规模授業「資源論」

公開時期: 2009 年 6 月 22 日（月）～ 7 月 6 日（月）

なお、本公開授業の概要は、関西地区 FD 連絡協議会ニュースレター第 3 号にも掲載され

ている (http://www.kansai-fd.org/publications/pdf/news_letter_3.pdf)。

(b) 「物理学 I」 倉茂好匡先生 (滋賀県立大学)

テーマ: 演示実験を用いた大講義でいかに学生を惹きつけているか

公開時期: 2009年12月14日(月)～28日(月)

本取り組みに関する MOST (Mutual Online System for Teaching & Learning: モスト) によって作成されたスナップショットは以下の通りである。



滋賀県立大学

初年次の基礎物理における演示実験の導入

倉茂 好匡 (滋賀県立大学 環境科学部)

はじめに～演示実験導入の背景

基礎物理、特に力学を学習する場合、その学習内容を通して物理現象を理解できるようになる必要がある。ところが、高等学校で物理を履修した学生であっても、「練習問題を解くことはできるが、それを現象と結びつけて考えることは不得意である」あるいは「教科書やドリルで読んだ現象であっても、それを実際に観察したことがない」ということが多い。また、大学に入学して初めて物理(力学)を学ぶ学生にとっても、現象を理解せずに物理の法則を学んでも、その知識がなかなか定着しない。

一方、この講義は履修者が明年100名ないし130名程度であるため、個々の学生あるいは学生のグループに実践させている余裕はない。また、2年前期で「物理学実験」を開講しているため、本日に実験を行ってみたいと意図する学生に対して「物理学実験」を受講するよう誘導したいとの希望もある。そのため、学生の興味を引くような演示実験を講義中に行うようになっている。15回の授業のうち、11回の授業でなんらかの演示実験を行っている。

履修学生のほとんどは環境科学部の1年生である。このうち、20%程度の学生は高等学校で「物理学I・II」を履修しているが、残りの学生は高等学校で物理をほとんど学習していない。

演示実験導入による学生の学習へのインパクト

授業者として、「学生の集中度が上がる」「学生がモチベーションをもって授業に臨んでいる」ことを授業中に実感している。

「学生による授業アンケート」結果(2008年度)では、「授業内容への興味」が平均4.0ポイント(全学平均3.6ポイント)、「教員の教え方の適切さ」が4.5ポイント(全学3.5ポイント)、「授業の満足度」が4.2ポイント(全学3.6ポイント)である。

個別意見をみると、上記のような高評価の理由として「演示実験、および「課題への丁寧な添削指導」が多くあげられている。

授業の概要

基礎物理、特に力学について学ぶ。環境科学部の場合、2年次以降では流体力学を取り扱うことになるので、流体力学を履修するのに必要な力学を学ばせることが目的である。また、大きさのある物体の回転に関する問題にも対応できるよう、最後の4回は「剛体の力学」を学ぶようにしている。

実施時期は1年後期で、環境科学部の環境生物学科、環境政策・計画学科、生物資源管理学科の選択科目である。ただし、環境科学部の物理学学生および工学部の学生が受講することも認められている。今年度は、工学部機械システム工学科の3年生2名も履修している。TAの配置は認められていない。

なお、学習内容の定着を図るため、毎回宿題を課すことを原則としている。回収した宿題には必ず赤ペン添削を実施し、翌週の授業冒頭で返却することとしている。返却時には必ず学生の名前を呼び、一人一人に手渡すように配慮している。「手渡し返却の時間があった方がいい」との指摘が学生からなされる場合もあるが、この「手渡し返却」により、私自身は学生の名前と顔を一致させるよう努力している。

シラバス PDF

Web公開授業実践について

本授業は、Web公開授業で2週連続公開され(2009.12.14～28)、オンライン掲示板上で検討会が行われた。本実践は、関西地区FD連絡協議会におけるWeb公開授業研究SGの取り組みである。

リフレクション

私の授業を多くの方にご覧いただいたこと、本当にうれしく思います。私としては、この授業は「特別に準備した授業」ではありません。いつもこのような調子で授業をしております。ただ、その中でも演示実験が「少々大変がり」なものであっただけです。

自分の授業をVTRで見てみて、学生のほとんどが授業に集中してくれている様子を確認でき、うれしく思っています。もっとも、やはり大人数授業の弊害もあり、「個々の学生に目が行き届いていない」現実も改めて突きつけられた感もあります。

でも、私の中等教育教員経験からいっても、「個々に目配り」できる人数規模は最大でも50名程度で、それも30名を超えるあたりから「質がさがる」ものです。したがって、大学での大人数授業では、授業を基調する上で「個々への目配り」に頼ることができません。それだけ、授業の内容や質問方法そのもので、「学生をひきつける」ことが重要になるのだと思います。

そんなとき、演示実験が理系授業でどれだけの効果があるのか、さらには物理に対する赤ペン添削がどれだけ効果的なのか、視聴してくださった方々にお感じいただけたのなら、授業者として幸甚であります。

授業の構成～演示実験の位置づけ

「物理学I」の授業で行っている演示実験には、「授業で扱った現象そのものを見せるためのもの」と「一見して不思議と思う現象を示し、それを物理的にのっとなって解釈させるもの」の2種類がある。今回WEで公開するものは、「力学台車にブロックを乗せてゴムで引っ張る」演示実験は前者のもの、また「ガラスの上に覆って置く実験」は後者のものである。

「一見して不思議と思う現象を示す」演示実験を行うことは、力学の授業運営上きわめて有効である。学生個々に「いったいなぜなのか」と考える気持ちを持たせることが容易になるうえ、学生の集中度も上昇する。

インパクトの強い演示実験を行ったときは、その理解の程度を量るための宿題を課すようにしている。本講の場合は「ガラスの上に乗る実験」がなぜ安全なのかを、物理則を用いて論述させる問題を宿題の中に入れてある。物理則に乗っ取った論述になっていることを、今回の宿題の評価では重視している。

巻頭 PDF

巻頭例

履修科目1

履修科目2

教員の皆さんへのメッセージ

私は、もともと中学・高等学校の理科教員である。東京の私立の中学高等学校にかつて勤務しており、物理学と物理学を担当していた。そのとき、先輩教員から「理科の授業では、本物に触れさせろ」「現象に触れさせろ」「実験を重視せよ」ということを繰り返し指導された。その学校の理科教育では、この点がきわめて重要視されていたのである。そして、このことの重要性は、実際に生徒が成長した過程を見て、私自身も痛感している。

したがって、大学の物理系の授業でも、可能な限り演示実験を取り上げたいと考えている。もちろん、マスプロ化した授業では、それこそ「舞台を利用した、大じかけの演示実験」にしなくてはならないことも容易に予想される。でも、工夫次第では、普段の授業で利用している教室でも実施可能だと思う。

ただし、このような活動を本当に効果的に行うのなら、講義科目にもTAの配置をしてほしい。私の大学では、講義科目へのTA配置は認められていないので、現状では「教員個人で行える範囲」での実施にとどまっている。

私が行っている演示実験には「ネタ本」がある。このような実験に熱心な高等学校の物理の先生方が作成したテキストで、非常に面白い。大学の授業でも導入可能なものがたくさん入っている。力学のみならず、電磁気・波動・熱力学などのネタも多く示されている。物理系で演示実験を取り入れてみたい方には、ぜひ参考にしていただきたい。

参考文献

- ・愛知・岐阜物理サークル編著「いきいき物理わくわく実験」新書出版
- ・愛知・岐阜・三重物理サークル編著「いきいき物理わくわく実験2」新書出版

Ⅲ. 研究 WG の 2010 年度の活動計画（案）

(1) 研究 WG の活動方針

- 各研究 SG ごとに、自主的に、共同研究活動を推進する。研究 WG は、その活動に必要な支援を行う。
- 各研究 SG の活動内容は、関西 FD のホームページに掲載すると共に、公開研究会や大学教育研究フォーラム（京都大学）の場などを利用して、共有を図る。
- 2009 年度をもって Web 公開授業研究 SG を解散する。これを機に、研究 SG の再編成を試みる。授業評価研究 SG についてはそのまま継続とする。出欠確認研究 SG は、ケータイ等の ICT を利用した授業アンケート、出欠確認の実施方法等のあり方を中心に、FD におけるメディア活用全般を見据えて共同研究を進めることとし、「FD メディア研究 SG」と名称を変更する。また、新たな研究 SG として、FD の研修会や研修プログラムなどのあり方を、インストラクショナル・デザインの理論等をベースに共同研究を進める「FD デザイン研究 SG」、及び、授業の場で自己理解やメンタルヘルスの向上に役立つ予防的知識やスキルを提供する授業実践を共同研究する「授業型学生支援研究 SG」を発足させる。
- いずれの研究 SG も、再度、参加の募集を行うと共に、新たな研究 SG の創設の要望も募ることとする。新たな研究 SG 設立の要望が会員校から寄せられた際には、研究 WG での検討を経て、新たな参加を募ると共に、円滑な運営ができるように支援する。

(2) 「授業評価研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 1～2 回程度開催すると共に、授業評価ワークショップの開催を企画・実施する。
- 授業評価ワークショップの講師謝金、SG 会合の会議費等を必要とする。

(3) 「FD メディア研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 4 回程度開催すると共に、ケータイ等を利用した授業アンケート、出欠確認の見学会を実施する。
- ケータイによるアンケートシステム（i-MAS）の共同利用のために、i-MAS のモニター利用料（雑役務費）を必要とする。
- 会合開催費（資料代・お茶代）等の会議費を必要とする。

(4) 「FD デザイン研究 SG」の計画案

- SG 研究会を 2 回程度開催する。また、大学教育研究フォーラムなどのラウンドテーブルなどで、研究成果の一端を報告する。
- 研究会の講師謝金、SG 会合の会議費等を必要とする。

(5) 「授業型学生支援研究 SG」の計画案

- 実際に、自己理解やメンタルヘルスの促進に役立つ授業に関する実践研究、効果検証を行っている教員をメンバーとし、定期的な研究会を通して、各教員の実践研究例を報告し、情報や課題の共有を行うとともに、授業開発に関する共同研究を行う。
- 会合開催費（資料代・お茶代）等の会議費を必要とする。

(6) 研究 WG の予算案

Ⅲ-1-1. 資料7

- 会合開催費（資料代・お茶代）、および、講師謝金・旅費を必要とする。会議・研究会等 10 回程度の会議費（5,000 円×10 回=50,000 円）、外部講師招聘 5 名程度（旅費=50,000 円×3・謝金約 36,000 円×3=258,000 円）、i-MAS システム利用費（100,000 万円）、計 408,000 円。

Ⅲ－１－２．FD 活動の報告会

2010年4月24日（土）、関西地区FD連絡協議会第3回総会において、会員校で組織的に取り組まれているFDや教育改善の活動についてポスター発表の形式で情報交換をおこなう「FD活動の報告会」が実施された（資料Ⅲ－１－２、写真1）。本報告会は初の試みであったが、幹事校を中心に17の会員校から発表があった。報告会では、14:45より約1時間に渡って途切れることなく活発に発表者と参加者間で意見交換がなされた。情報交換会の時間帯にも引き続きポスターを掲示したが、ここでもポスターを前にいくつかの輪ができていた。

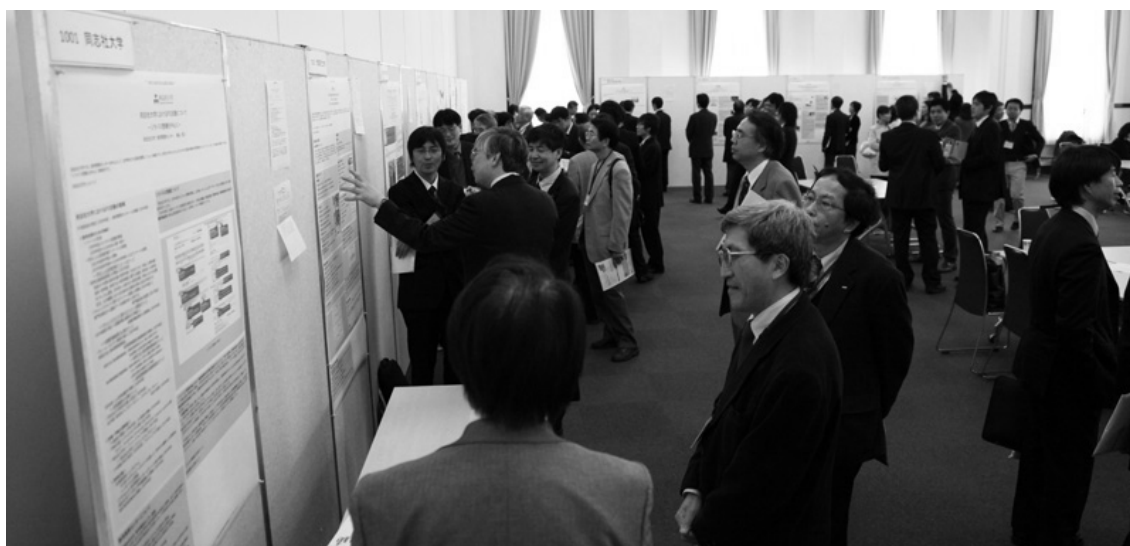


写真1 「FD活動の報告会」の会場の様子

本報告会は、第2回総会において本協議会の新たな活動として提案され、およそ1年の準備期間を経て実現したものである。本報告会の全体デザインについて図1に示す。この取り組みは、以下に述べるようなねらいが含まれている。

最初のねらいは、各会員校で組織的に取り組まれているFDや教育改善の活動に関する情報交換の場を、本協議会の公的活動として設けることである。これを双方向の意見交換が容易なポスター発表の形式で実施することとした。これまでにも、本協議会のニュースレターで会員校における取り組みを紹介してきたが、紙面が限られている上、広報ワーキンググループで会員校の多様な活動のすべてを把握することは不可能である。年に一度、会員校個別の活動成果について持ち寄り、それらを共有する場を設けることは、発表校、総会への参加者双方に有益

なものであろう。

次に、ポスター発表の内容に対して会員校がコメントを付けるピアレビューの試みがおこなわれたことは本報告会の大きな特徴である。ポスターの作成者には、あらかじめポスター上に「取り組みの視点」や「コメントが欲しい点」を記述するよう依頼し、ポスターの閲覧者がコメントをしやすくなるよう工夫した（資料Ⅲ-1-2）。このピアレビューでは、ポスターの原稿を総会当日までに指定した会員校に一読するよう依頼し、事前にコメントを考えてもらう「指定校用コメントシート」と、総会の参加者が報告会の場で自由にコメントを付ける「一般用コメントシート」を準備した。前者では、発表校につき2校の指定校にコメントを依頼したが、総会に出席不可能である場合などを除き多くの会員校から同意があり、結果としてほぼすべての発表に対してあらかじめ指定した会員校からのコメントが提出された。一般的なポスター発表では発表者と聴者間で発表内容をめぐって議論がなされるが、これをその場限りのものとするのではなく、このような対話を簡潔な文書の形で出し合い、会員校間で共有することで、FDに関して抱える課題や評価の視点を相互に強化することができるのではないだろうか。このピアレビューの試みは、他に例を見ないユニークなものである。

また、ポスターの原稿は、MOST¹と呼ばれるオンラインFD支援システムを利用し、KEEP Toolkitを使った「スナップショット」としてMOST上で作成することが推奨された。ほとんどの発表校がMOSTを利用して原稿を作成され、これ以外の発表原稿と合わせて一覧にしたものを、協議会の成果としてウェブ上で対外的に発信した（図2）。なお、ピアレビューのコメントについては、会員校の共有財産として冊子および会員校の教職員のみがアクセスできるMOST内に設置したオンラインコミュニティ内で公開された²。すでに発表校のポスター一覧は公開済みであるが、これを毎年継続することで、会員校のFDの取り組みを網羅できればと考えている。また、これらを互いに関連づけたり分類したりして提示することで、同様の取り組みをおこなっている会員校同士を結びつけ大学間連携などに発展する可能性もあるだろう。さらに、協議会全体の成果として発信することは、本協議会の社会に対するアカウンタビリティを示すことにもなる。

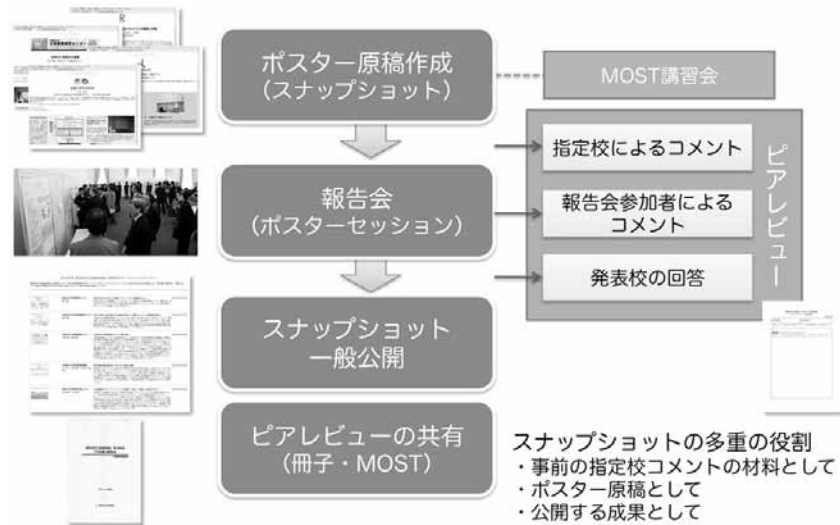


図1 「FD活動の報告会」のデザイン



図2 スナップショットギャラリー（左）とピアレビュー報告書（右）

このように、本報告会は複数の活動が盛り込まれ、そのインパクトができるだけ大きなものとなるよう意図されている。今年度は本報告会の立ち上げ段階として、試行という形で実施され、ピアレビューのあり方などいくつかの課題も浮き彫りになった。本報告会は、初年度の反省を踏まえて次年度以降も継続的に実施し、協議会の恒常的な活動として位置づけていくことが決定している。本報告会の取り組みは、会員校相互の貢献なくしては実現不可能であり、今後も本活動に対する会員校の協力が不可欠となる。

総会時のアンケートで、ポスターセッションの満足度について尋ねたが、回答数 57 件のうち、「非常に満足している」が 22 件、「まあまあ満足している」が 30 件、「どちらともいえない」が 3 件、「あまり満足していない」が 2 件、「全く満足していない」が 0 件で、5段階の評定平均値が 4.26 と非常に好評であったといえる。自由記述からは、「すべての参加校がポスタ

ーを出すともっとよかった」「(ポスターの原稿を) 配付資料として準備していただければよかった」「ピアレビューの文字はもう少し大きくてもよかった」などの意見が得られた。時間帯の設定については意見が分かれたが、発表時間が短いとの記述がやや多かった。次年度以降に継続していくにあたり、これらのアンケートの結果を参考にプログラム自体も改善していきたい。

最後に、ポスター発表やピアレビューコメントにご賛同、ご協力頂いた会員校の教職員のみなさま、MOST 講習会を含め、本報告会の準備や実施に多大な尽力を頂いた事務局スタッフに感謝したい。

注

- 1) MOST (Mutual Online System for Teaching and Learning: <https://online-tl.org>) は、京都大学が 2009 年 11 月に構築した大学教員のためのオンライン FD 支援システムである。MOST を使ったポスター作成のための講習会を 3 月 17 日に本センターと広報 WG が共催し実施した。講習会当日は、本協議会の主催事業である初任者研修担当者ワークショップと重なり、一部参加できなかった会員校もあったが、13 校から 16 名の参加者があった。本講習会では、ポスター原稿作成に関する「テンプレート」が共通フォーマットとして提示されたほか、藍野大学の平山朋子先生に原稿の作成経験を踏まえてご講演頂いた。
- 2) ポスター原稿やピアレビューコメントの公開と共有は、広報WGの業務としておこなった。

(酒井 博之)

関西地区 FD 連絡協議会 第 3 回総会

日 時：2010 年 4 月 24 日（土）13:00～

場 所：京都大学百周年時計台記念館

プログラム

13:00 総会（百周年記念ホール）

14:45 ポスターセッション「FD 活動の報告会」（国際交流ホール II・III）

16:00 活動報告（百周年記念ホール）

17:30 情報交換会（国際交流ホール II・III）

FD 活動の報告会 関連スケジュール

2009 年

12 月 9 日（水） ニュースレター 3 号発行（発表校の参加受付開始）

2010 年

2 月 5 日（金） 参加受付締め切り

3 月 11 日（木） MOST 講習会参加者に MOST アカウント発行

3 月 17 日（水） MOST 講習会

4 月 9 日（金） 発表原稿提出締め切り

4 月 9 日（金） 幹事校会議（ポスター発表校、ピアレビュー担当校の承認）

4 月 13 日（火） ー ピアレビュー担当校に発表原稿、コメントシート記入要領を通知

4 月 24 日（土） 総会「FD 活動の報告会」

5 月 10 日（月） 発表者からの回答コメント締切、冊子化用原稿の修正期限

5 月 31 日（月） MOST 上での共有化、関西 FD の HP からリンク

6 月初旬 会員校の教職員に MOST への参加希望を尋ねる

7 月初旬 冊子を会員校に配布

「組織的 FD ポートフォリオ」テンプレート

** このページはパブリッシュされていません **



[上 (↑) のロゴマークを貴学の所属組織/部局のものに差し替えてください]

【タイトル】

[作成者氏名] [作成者所属大学名・部局名]

[概要：200～250字程度で、簡潔に記述してください]

キーワード：[キーワードを5つ程度記入してください]

[左下 "edit links" から所属部局/取り組み記事のウェブサイトのURLへリンクを貼ってください]

[**大学高等教育センター]

[**大学高等教育センターのウェブサイト]

取り組みの背景

[この取り組みを行うに先立って、貴学で課題となった点は何ですか？なぜこの取り組みを行うに至ったかの背景（解決したい課題、対象者、目的など）について簡潔に記述して下さい。]

学生・教員に対するインパクト

[この取り組みをおこなうことで、教員や学生にどのような改善や変化が見られましたか？できれば、事例やデータ（学生、参加者のコメントなど）を提示しながら、簡潔に記述して下さい。]

取り組みの位置づけ

[貴学の組織的なFD活動における、本取り組みの位置づけについて簡潔に記述して下さい。]

[また、実施体制、対象となる学生・教員に関する情報などを簡潔に記述して下さい。]

取り組みからの示唆

[貴学のFD活動や教育改善活動に対して、この取り組みから得られた示唆は何ですか？簡潔に記述して下さい。]

[その他、本取り組みに関して残された課題や反省点など、協議会の会員校間で共有すべき事項があれば簡潔に記述して下さい。]

取り組みの内容・方法

[取り組みの内容および方法について、簡潔に記述して下さい。詳細な内容は、別途電子ファイルやウェブページへのリンクを作成して下さい。]

評価の視点

[ポスター発表で参加者から本取り組みに対して評価を希望する点（1～2点）を箇条書きで簡潔に記述して下さい。]

- 1.
- 2.

取り組みの画像・映像

[本取り組みについて、読者の理解を促進させるような画像や図表があれば、このスナップショット内に適宜配置して下さい。映像はウェブ上から閲覧できます。]

資料・文献

[取り組みを行うにあたって有益であった資料や文献、他大学の取り組み事例などの一覧を作成して下さい。]

- ・
- ・
- ・ . . .

Ⅲ-1-3. FD 情報支援ワーキンググループ

1. 概要

FD 情報支援ワーキンググループでは、下記の案内をもとに、関西地区 FD 連絡協議会の参加校に対する FD 情報支援をおこなった。

FD 情報支援 WG からのお知らせ

「講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する相談、情報提供」

担当：勝山貴之（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、溝上慎一（京都大学）

FD 情報支援 WG では、関西地区 FD 連絡協議会・加盟校の FD 活動促進を支援するべく、FD に関する相談、情報提供の窓口を設置しました。FD に関するテーマで講演会・シンポジウム・ワークショップを開催したいが、そのテーマに取り組んでいる講師を紹介してほしい、プログラムの相談に乗ってほしい、などの場合にご利用ください。

この活動の担当は溝上（京都大学）がおこないます。お問い合わせは下記の要領でお願いします。

・連絡先：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

メールアドレス（smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp）、

研究室 TEL（075-753-3047）

*まずはメールでお問い合わせの詳細をお知らせください。折り返し、メールでお返事、ご希望の場合は電話でお返事します。

・ご相談の内容によっては少しお時間を頂くこともあります。あらかじめご了承ください。

2. 本年度の活動実績

下記の通りで、計7件の支援業務をおこなった。

0412-2010	大阪医科大学	医学部で教養教育を考える導入となる講演
0518-2010	関西福祉科学大学・関西女子短期大学	GPA 制度の説明、大学と短大併設私学で実施されている「GPA の活用事例」の紹介
0611-2010	京都造形芸術大学	3 つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)について
0715-2010	大阪商業大学	パワーポイントの効果的な使い方について
0813-2010	和歌山信愛女子短期大学	FD はなぜ必要なのか？
1001-2010	京都文教短期大学	短期大学の初年次教育
1101-2010	大阪商業大学	中小規模の私学におけるFD の在り方・必要性

3. 本年度を振り返って

FD 関連の情報支援をおこなうようになって、3 年が過ぎた。この間我々は徐々に、会員校からどのような FD 関連の支援が求められるかを理解してきたし、会員校の依頼にうまく応じるための FD 情報の収集方法も確立してきた。しかし、本年度を振り返ると、1 年目、2 年目に 15 件あった支援依頼が、今年は 7 件と半減していることに気がついた。この状況が、会員校の自立した FD 活動の表れであるならば喜ばしいことであるが、単に本サービスの存在が会員校に十分に伝わっていない、あるいは情報支援の提供が会員校にとっての十分な支援となっていない、ということの表れであれば、これは問題である。次年度の課題として検討したい。

(溝上 慎一)

Ⅲ-1-4. FD 共同実施ワーキンググループ

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修共同実施の企画立案をはじめ、会員校が行動で実施する活動を行っている。ワーキンググループの構成は、以下の通りである。

大阪大学（常任幹事校）、関西学院大学（幹事校）、京都大学（代表幹事校）（以上 FD 共同実施部）、大阪歯科大学、大阪成蹊短期大学、大阪樟蔭女子大学、関西看護医療大学、畿央大学、京都文教大学、京都文教短期大学、神戸大学、滋賀県立大学、夙川学院短期大学、びわこ成蹊スポーツ大学、平安女学院大学、立命館大学、龍谷大学、和歌山大学（50 音順）

1. 活動目的

2009 年度に引き続き、初任者研修の共同実施に向けてプログラム開発を行うことが 2010 年度の共同実施ワーキンググループの目的であった。

2. 2010 年度の活動報告

2-1. FD 共同実施ワーキンググループ研究会の開催

2011 年度春の関西地区 FD 連絡協議会会員校の初任者を対象とした初任者研修共同実施のプログラム開発のために、様々な大学で行われている初任者研修に参加し、その後、研究会という形で各大学の初任者研修の検討会を行った。研究会は大阪大学、関西学院大学、京都大学で開催された。また、滋賀県立大学も FD 研修会「授業の基本」を公開とし、共同実施ワーキンググループの参加者を参加可能とした。ここでは、2011 年度の共同実施プログラム開発も含めた議論が行われた大阪大学、関西学院大学、京都大学での研究会の概要について示す。

第 1 回研究会：2010 年 3 月 25 日 大阪大学

2010 年 3 月 25 日に第 1 回目の研究会が開催された。この研究会では、大阪大学の共通教育新任教員研修のプログラムとして開催された「対話型授業を目指して」と題された大阪大学平田オリザ先生によるボディーワークに参加し、その後、研修内容について議論が行われた。参加者は 7 名であった。研修会の内容と第 1 回研究会での議論は以下の通りである。

< 研修会の内容 >

ブラインドウォークや簡単な台本を元にしたやり取り（小芝居）を行うといったボディーワークとその解説を交えながら、若者（大学生）のコミュニケーション能力の多様化や相手の経験に即したコミュニケーションの必要性など、コミュニケーションをデザインする上で重要な観点が提示された。

< 研究会での議論 >

■ ワークショップに参加して

- ベテラン教員の方が、ボディワークやコミュニケーションに関わるワークショップによる気づきが多いのではないかと。経験豊富な人間の方が、ワークショップの内容と自身の経験を関連づけられる。
- 講義形式の授業を運営する上で示唆が多い研修会であった。例えば、大学では教卓から動かない教員が多いが、初等中等教育では違う。授業中に学生とコミュニケーションをとる上では、どこに立つべきか、どのような会話を行うべきかといったことを考える必要がある。
- 例えば、授業中の動きなどを研修としたときに、それが単なる tips として伝わってしまうのは怖い。tips ではないというメッセージが伝わるようなやり方を考える必要があるだろう。

■ 初任者研修共同実施に向けて

- ワークショップ形式だと教員の参加率が低い。ワークショップをスムーズに受けられるようなプログラムの作成が必要になるだろう。
- 共同実施でワークショップを行う場合、研究分野や大学の規模を統一すべきかどうかは議論する必要があるだろう。
- 自校教育のようなガイダンスは各大学で行うもの。共同実施はそれにプラス α した研修であるという捉え方をしてもらいたいと思う。実施時期としては、一通り授業を経験した後である夏休みが良いのではないかと。

第2回研究会：2010年6月19日 関西学院大学

2010年6月19日に第2回目の研究会が開催された。この研究会では、関西学院大学新任者研修会に参加し、その後研修内容に関する議論が行われた。参加者は、新任者研修への参加が19名、研究会への参加が12名であった。研修会の内容と第2回研究会での議論は以下の通りである。

<研修会の内容>

■ 当日のプログラム

9:10~10:40

(1)障がいのある学生に対する修学支援の方法

関西学院大学 総合政策学部教授 高畑由紀夫氏

10:50~12:20

(2)多人数講義における双方向授業の工夫

関西学院大学 文学部教授 森田雅也氏

<昼食>

13:30~15:30

(3)グループ学習を成功させるコツ

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長・准教授 佐藤浩章氏

(1)では、視覚障害や聴覚障害、また発達障害といった様々な障がいを持つ学生に対する修学支援について、関西学院大学の取り組みをもとに、講演者である高畑先生が実際に対応してきたケースや障がいを抱える学生や高校教員へのアンケート結果といった幅広い内容の話題が提供された。

(2)では「クリッカー」と「旗揚げ式アンケート」の2つのツールを用いた授業の進め方とそれぞれの利点について、クリッカーを用いたワークを通じた紹介が行われた。クリッカーと旗揚げ式アンケートはいずれも学生の意見を問いながら、彼らを学生に巻き込むことを意図したツールであるといえる。授業の内容や形式、学生の特徴などに応じて使い分けることが重要であるといえることができるだろう。

(3)は1.グループワークの意義を説明できる、2.グループワークを実際に自らの授業に導入してみようという動機を持つという2つの学習目標のもと、グループワークの体験とグループワークに関するレクチャー（先行研究などの紹介）を組み合わせた内容で進められた。グループワークとレクチャーが丁度よいバランスで組み合わせられていたこと、また、本セッションの最後には振り返りの時間も準備されていたことなど、本セッション自体が「効果的なグループワーク」になるよう構成されていたといえるだろう。

<研究会での議論>

- 初任者を対象とする時に、障がいを抱えた学生の修学支援ということを研修に組み込んだほうがよいのかどうかは議論する必要がある。
- 障がいの問題は、新任研修だけではなく、ベテランの先生方にも必要な知識だろう。
- 障がいの問題については、学生の多様性を知らせることが重要。実際は直面しないと問題意識を持ちにくい。
- グループワークについては、それを行うことによる学生の変化といった、実際の効果を客観的に示すことが出来ればよいと思う。
- グループワークの効果について、MITではデータを公開している。
- グループワークに乗らない学生もいることには注意しなければいけない。

第3回研究会：2010年8月5日 京都大学

2010年8月5日に第3回目の研究会が開催された。この研究会では、京都大学文学研究科プレFD研修会に参加し、その後研修内容に関する議論が行われた。京都大学文学研究科プレFD研修会は本来京都大学文学研究科のPD（ポストドクター）やOD（オーバードクター）向けの研修会であるが（詳細は本報告書Ⅱ-3-1 文学研究科プレFDプロジェクトを参照のこと）、教育経験の少なさという点では初任者研修と共通する部分があるため、共同実施ワーキンググループの研究会の対象となった。参加者は、プレ研修会への参加が15名、研究会への参加が11名であった。研修会の内容と第3回研究会での議論は以下の通りである。

<研修会の内容>

■ 当日のプログラム

(詳細は本報告書Ⅱ-3-1 文学研究科プレ FD プロジェクトを参照のこと)

<研究会での議論>

- 初任者研修を共同実施する場合、大学間において抱える問題に関するベースが異なる。今回のプレ FD は「京大の教育」という点でベースが一緒なので議論等も進めやすいが、複数の大学が集まる共同実施では議論も難しいだろう。研修会の形式(座学と議論の組み合わせ)は今回のプレ FD のやり方でもいいが、内容は考えなければいけない。
- 各々の大学内でどのようにふるまうのかは、各々の大学で解決しなければいけない問題。共同実施で行う場合、その問題は解決できない。ただ、それぞれの大学で抱えている悩みを共有すること、そしてそこから何か気づきを得ることは重要だ。
- 近年は新任の実務家教員が増えている。彼らは現代の大学教育の流れ、用語などを知らないまま教員になる。従って、現在の大学教育の流れを把握できるような講義が短時間でもあると、そういう人たちにとってもありがたい。

第 4 回研究会：2010 年 11 月 11 日 京都大学

2010 年 11 月 11 日に第 4 回目の研究会が開催された。この研究会は、2009 年度の活動および 2010 年度に行った 3 回の研究会での議論をふまえて、2011 年度の共同実施をどのような形で実施するのかを議論するものであった。参加者は 10 名であった。この研究会での議論の結果、2011 年度から行う初任者研修共同実施では、関西 FD で 1 つ大きなイベントを行うのではなく、関西 FD 加盟校の初任者研修を相互利用する仕組み(「関西地区 FD 連絡協議会初任教員向けプログラム(Program for Junior Faculty)」)を開発することを目指すこととなった。2011 年度は幹事校が自校の初任者研修を公開し、あわせて研修を公開可能な大学(2010 年度であれば滋賀県立大学のような)についても募集を行うこととなった。

以上、2008 年度に実施した関西地区における初任者研修の実態調査、2009 年度に実施した全国レベルの新任教員研修に関わる先進事例の勉強会、さらに今年度実施した、共同実施 WG 内部で行われている新任教員研修の公開とその後の検討会といった活動を経て、2011 年度は各大学の初任者研修を相互利用する初任教員向けプログラムを共同実施 WG として開発・整備していくことが決定された。この初任教員向けプログラムの概要について、2-2 で述べる。

2-2. 初任教員向けプログラム(Program for Junior Faculty)とは

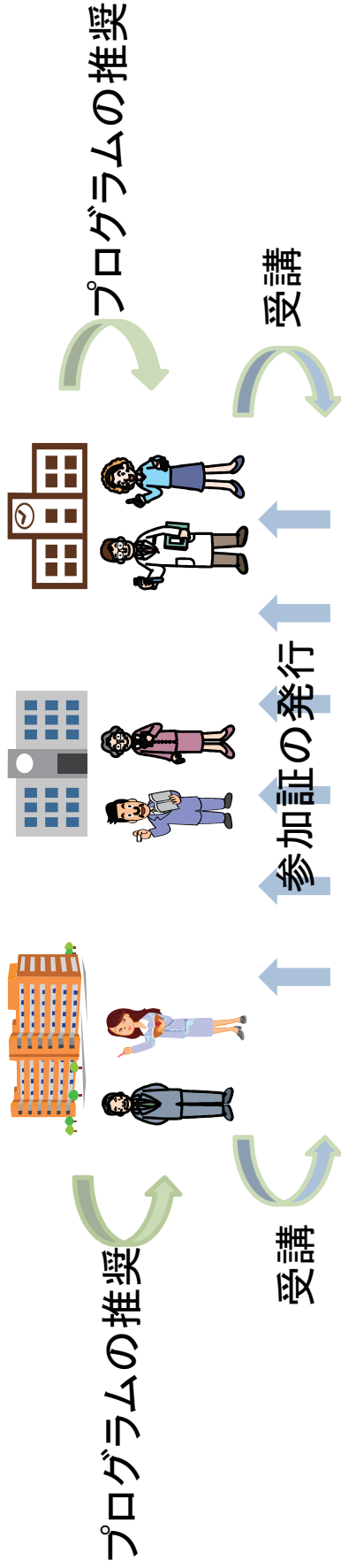
関西 FD 加盟校では様々な研修会が実施されている。それらの研修会の中で、「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとすることとした。この初任教員向けプログラムとは、そのような関西 FD 認定プログラムを集めた研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供するものである(資料 1)。

このように相互利用を可能にすることによって、イベントとして1日で行った場合と比べて参加日時や場所、そして内容の選択の幅が広がり、多様な研修機会を提供することが期待できる。この認定プログラムへの参加者には関西FDより参加証を発行をする。加盟校の文脈に応じて、「希望者が自由に認定プログラムに参加できるよう促す」、「大学で選択した特定のプログラムへの参加を義務づける」等、様々な対応が可能になるといえるだろう。

3. 2011年度の活動に向けて

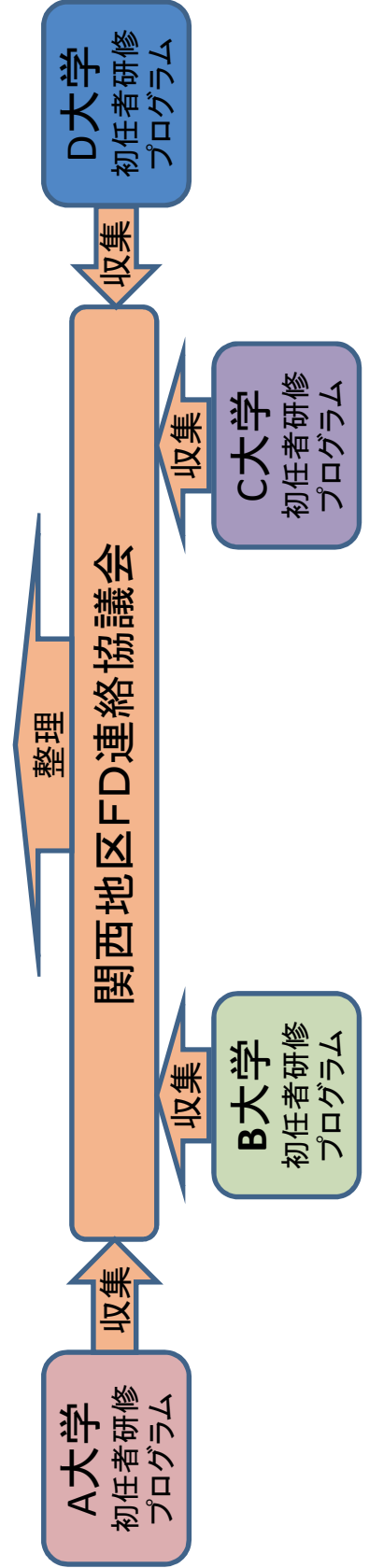
2011年度は、初任教員向けプログラムへの参加を通じて各大学の初任者研修の検討を行うと同時に、本プログラムへの参加校を増やすための広報活動を行うことが活動の中心となる。

(田口真奈、半澤礼之)



種類	テーマ	政策・制度 (Policy)	理念・歴史 (History)	組織 (Organization)	カリキュラム (Curriculum)	教授学習 (Teaching & Learning)	評価 (Evaluation)	キャリア デザイン (Career Design)	その他
講演会									
シンポジウム									
ワークショップ									
その他									

関西地区FD連絡協議会 初任教員向け(Program for Junior Faculty)プログラム



Ⅲ-1-5. FD連携企画ワーキンググループ

FD連携企画部とFD連携企画ワーキンググループ(WG)は、2011年3月現在、以下の大学で構成されている(敬称略)。

◇FD連携企画部

- ・立命館大学(安岡高志)・・・責任校
- ・関西大学(池田勝彦)
- ・神戸常盤大学(松田光信)
- ・京都大学(松下佳代、石川裕之、田川千尋)・・・事務局

◇FD連携企画WG

上記のFD連携企画部、および以下の関西FDパイロット校の計6校

- ・藍野大学医療保健学部理学療法学科(平山朋子)
- ・京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科(須川いずみ)

5-1. 活動内容

(a) 目的と特色

FD連携企画WGの目的は、関西地区FD連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ(問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など)を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントを実施するのではなく、継続的に情報交換しながら、実質的な教育改善・FDを進めるための緩やかなコミュニティを形成することをめざしている。

FD連携企画WGには、ニーズの高いテーマに関連して自校のFDに取り組む会員校を「関西FDパイロット校」として支援するという特色がある。2011年3月現在、神戸常盤大学、藍野大学、京都ノートルダム女子大学の3校が関西FDパイロット校となっている。

(b) 活動計画

FD連携企画WGでは、以下のようなプロセスで活動を展開していく予定である。

- ①特定のテーマについてシンポジウムを開催する。
- ②シンポジウム参加校を中心にグループを形成する。
- ③グループ内での先進校の取組事例の学習や自校での試行をWGが支援する。
- ④グループは、関西FDのホームページ・ニュースレターや大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う。
- ⑤毎年、①～④を繰り返しながら、大学間連携を拡大・進化させる。

5-2. 2010年度の活動報告

(a) WG メンバー校の活動

2010年4月24日(土)に京都大学にて開催された関西地区FD連絡協議会第3回総会において、ポスター発表とピアレビュー形式による「FD活動の報告会」がおこなわれ、本WGからも、以下の5校が活動報告をおこなった、

- ・立命館大学：井上史子・金剛理恵・沖裕貴・安岡高志（教育開発推進機構）
『新任教員を対象とした実践的FDプログラムの開発と評価』
- ・関西大学：池田勝彦・三浦真琴（教育開発支援センター）
『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開—学生の「考動力」育成をめざして—』
- ・藍野大学：平山朋子（医療保健学部理学療法学科）
『理学療法教育におけるOSCEリフレクション法導入のインパクト—学生の主体的学びと自生的FDへの展開—』
- ・京都ノートルダム女子大学：須川いずみ・小山哲春（人間文化学部英語英文学科）
『キャリアデータベースを利用した社会人基礎力養成プログラム』
- ・京都大学：大塚雄作（高等教育研究開発推進センター・FD研究検討委員会WG2）
『京都大学のFD2009』

詳細については、協議会ウェブサイト (http://www.kansai-fd.org/activities/meeting/20100424_peer-review.html) を参照していただきたい。

また、関西FDパイロット校の藍野大学は、全体会でも「理学療法教育における自生的FD実践」と題する口頭発表をおこない、参加者の関心を呼んだ。その内容は協議会の「ニュースレター」第4号 (http://www.kansai-fd.org/publications/pdf/News-Letter_4.pdf) に掲載されている。

(b) ワークショップ

FD連携企画ワーキンググループでは、2011年1月8日(土)に京都大学吉田キャンパスにおいて、第6回関西地区FD連絡協議会主催イベント「ワークショップ：思考し表現する学生を育てる—書くことをどう指導し、評価するか? III—」を開催した(共催：京都大学高等教育研究開発推進センター)。本WGでは、昨年度好評を博した形式—講演とワークショップ—で開催された。以下に、このワークショップのプログラム、当日の状況、アンケート結果を報告する。

◇プログラム

13:00~13:10 開会あいさつ

田中 每実(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

13:10~14:10 講演

「学生の潜在能力と対話型教育—卒論・ゼミ指導の9年間の実践から—」

北野収(獨協大学外国語学部教授)

14:10～14:40 事例紹介

「“十字モデル”を使った試み」

須長 一幸（関西大学教育推進部助教）

齊尾 恭子（関西大学教育推進部教育開発支援センター研究員）

15:00～16:30 グループワーク

16:40～18:00 全体討論

◇当日の状況

参加者は会員校から 38 名、非会員校から 13 名の計 51 名であった。中には東京や福岡など遠方からの参加者も少なからずあった。本テーマへの関心の深さがうかがわれる。

第 I 部では、松下佳代（京都大学、本 WG）による司会のもと、小講演と事例紹介が行われた。獨協大学外国語学部教授の北野収氏による小講演「学生の潜在能力と対話型教育—卒論・ゼミ指導の 9 年間の実践から—」では、北野氏の前任校である日本大学における 3・4 年生 2 年間の卒論指導の教育実践報告があった。この実践報告



では、学生との、またゼミ内での学生同士の関係性の築き方、興味の引き出し方、そこからテーマ・問題設定へのつなぎ方、そして実際の執筆の際の指導の仕方、などが紹介された。中堅私大という背景、また、就職活動が厳しく学生の積極的参加を促すことが難しい状況の中、時間をかけた丁寧な面接とサポートにより学生自身の問題意識に基づく、頑張ることのできるテーマを選ぶことで学生のモチベーションを上げていくという氏の実践は、認知的・感情的に支援することの重要性と、協調学習がそれらを促進する可能性について示唆の多いものであった。

続いて、関西大学の須長一幸氏、齊尾恭子氏による事例紹介「“十字モデル”を使った試み」では、同大学のアカデミック・ライティングの授業で使われている、社会情報学部牧野由香里氏の開発した“十字モデル”を使った指導法が紹介された。この実践は、多くの学生がつまづく文章を書く前の作業（問題設定、論理構成など）に時間をかけた指導法であり、図を用いた具体的な指導法の紹介は参加者に直接的に役立つものとなった。質疑応答では、3 人の講演者に活発な質問が投げかけられた。

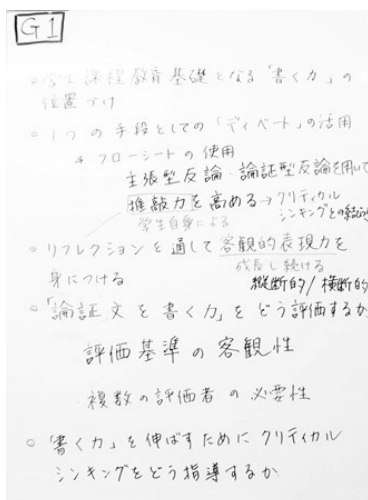




石川裕之（京都大学、本WG）によってグループワークの進め方についての説明がなされた後、第Ⅱ部に入った。第Ⅱ部では、参加者が3つの教室、あわせて9つのグループに分かれてグループワークがおこなわれた。（グループ分けは関心テーマをもとに行われた。）グループワークは、持参した資料にもとづいて各自が自身の実践を紹介し、それをグループで共有し議論した。また、議論した結果を90cm×120cmのポータブルなホワイトボードにまとめてもらった。

続く第Ⅲ部の全体討論においては、安岡高志氏（立命館大学、本WG）による司会のもと、各グループで議論した論点がホワイトボードを用いながら報告され、これをふまえて参加者全員による全体討論がおこなわれた。9グループから出された論点は、「書くことの指導と評価」という一つのテーマながら具体的な問題に対する形で多岐に渡った。主なものとしては、初年次学生への指導方法をどうすべきか、論理的思考と書くことをどうつなげて指導するか、テーマ設定をできない学生にどう指導するのか、大人数授業でどう指導するのか、学習集団をどう構成するのか、推敲力をどう育てるのか、それらの評価はどう行うのか、などである。

討論では、とりわけテーマ設定と書き方の枠組みについて、つまり「What と How の関係」について話題となったが、これは昨年も大きな議論となった点であり、指導上多くの教員が抱える疑問点である。討論ではまた、こうした指導する側をどう組織していくのか、という点にも話題が発展し、専門科目の中で教員が指導する必要性への言及からFDをどう組織して行くかという点にまで議論が及んだ。



最後に、司会の安岡氏より締めくくりとしてコメントが行われた。テーマを枠にはめるのか、あるいは書き方を枠にはめるかどうかという点について、最初に枠にはめられると窮屈に学生は思うだろうが、そのうちその枠により守られていることということが感じら

れるようになるのではないか、という指摘がなされた。テーマ設定については、学生のオリジナルな発想に価値付けすることにより、やる気を引き出し自信を持たせることが重要なのではということが強調された。

◇アンケート結果

「ワークショップ全体への参加満足度」「プログラムの有意義度（講演・事例紹介・グループワークそれぞれについて）」について5件法（1：まったく満足していない／有意義ではなかった～5：非常に満足している・有意義だった）によりたずねたところ、それぞれの評定平均は4.4、4.4、4.5、4.4であった（回答者39名）。全体的に参加者の満足度は高く、各プログラムの内容も有意義であったとの評価が得られた。

ワークショップに満足した理由をたずねたところ、「他大学の状況がわかったこと」「悩みを共有できたこと」「抽象理論ではなく実践をふまえた話題であったこと」「具体例に基づいて学ぶことができたこと」といった回答が得られた。さらに、ワークショップ参加による最大の収穫についてもたずねたところ、「他大学の取り組み／実践例／各先生の工夫を知ることが出来たこと」「“十字モデル”という具体的なツールについて学べたこと」「専門分野以外の分野での教育について知ることができたこと」「今後のカリキュラム再編に参考になった」というようにやはり事例を共有することが高く評価されているようであった。この中で具体的な問題点を共有できたことを評価する例として、「リサーチクエスションの明確化に多大な時間を要することを再確認できた」「グループワークが効果をもつ対象が結構あるものだ実感した」などという記述があげられる。

最後に、「今後に向けて改善したほうがいいと思われる点」をたずねたところ、グループワークに関する意見がいくつか寄せられた。時間がタイトであったこと、また、各自の持ち寄った事例紹介でグループワークがほとんど終わってしまったグループもあり、時間配分についてファシリテートする必要性などが指摘された。また、グループワークおよびグループ分けのテーマについて事前に知ることによって準備ができるのではという指摘もあった。

◇今後の計画

ワークショップで参加者に持参していただいた資料のうち、許可をいただいたものについては、スキャンし、整理・分類した上で、協議会のウェブサイトにはアップする予定である。

3年にわたる開催をふまえ、来年度も同じテーマでワークショップを継続するかどうかについては、現在、WG内で検討中である。今のところ、大テーマは変更せずに、下位テーマを設けて、テーマを深めていく可能性が高い。また、事後アンケートでは、複数の参加者から、本WGへの参加希望と関西FDパイロット校への参加希望が寄せられたが、これについても、今後のテーマや活動内容との関係をみながらWGで議論を

おこなっているところである。

本 WG メンバーには、全体会での司会、グループワークのオーガナイザーやファシリテーターとして活動していただいた。皆様に感謝の言葉を申し上げたい。

(松下 佳代、田川 千尋、石川 裕之)

Ⅲ－１－６． 広報ワーキンググループ

1. はじめに

広報ワーキンググループ（WG）は、協議会に関する広報業務を担当している。広報部は以下のメンバーで構成されており、2011年3月現在、広報部と広報WGのメンバーは一致している。

広報部・広報WG（敬称略）

矢野裕俊（大阪市立大学：責任校）

菊川恵三（和歌山大学）

酒井博之、藤本夕衣、笹尾真剛（京都大学：連絡担当）

2. 活動報告

2010年度の広報WGにおける活動報告を以下におこなう。今年度の具体的な活動として、ニュースレター4号・5号の発行、ホームページおよびメーリングリストの改修・維持・管理、「FD活動の報告会」に関する広報関連業務を行った。

(a) ニュースレターの発行

本年度のニュースレターは、第4号（7月、編集責任者：菊川恵三）と第5号（12月、編集責任者：矢野裕俊）の2号を発行した（図1）。昨年度までと同様、800部印刷し全会員校宛に送付した。非会員校についても入会を促すため各号1部を送付した。また、ニュースレターのPDF版を本協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

本ニュースレターでは、これまでに協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各WGからのお知らせのほか、会員校間のFD活動について情報共有を促進するため、個別の会員校におけるFDの取り組み紹介を充実させてきた。第4号（タイトル：「FDの地域連携の実質化に向けて」）では、第3回総会の報告に加え、大阪大学、和歌山県立医科大学、奈良女子大学、京都光華女子大学、甲南大学より活動報告があった。また、今年度初開催の「FD活動の報告会」についての報告もなされた。第5号（「相互利用できる初任者研修の共同実施をめざして」）では、夙川学院短期大学、京都文教大学より活動報告があった。また、第5号ではFD共

同実施 WG の活動を集録し、主に「初任教員向けプログラム」実施に向けての活動報告がなされた。

(b) ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会のウェブサイト (<http://www.kansai-fd.org>) の維持・管理を随時おこなった(図2)。本年度は、会員校間で自由に情報を共有できる仕組みとして、ツイッターの投稿記事(ハッシュタグ #kansai_fd) を閲覧できる画面をトップページに設置したほか、トップページへのバナー設置やサブメニューのプルダウン化によりサイト内の各リソースへのアクセスを改善した。当初予定していた会員校教職員のための登録制メーリングリストは予算不足で実現しなかった。本サイトは、月平均 2,030 件(2009年1月~12月。ユニークユーザー数では約 320 件/月)のアクセスがあった。このほか、幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを適宜作成、更新、管理した。



(a) 第4号



(b) 第5号

図1 関西地区FD連絡協議会ニュースレター



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

(c) 「FD活動の報告会」関連業務

2010年4月の総会で試行的に開催した「FD活動の報告会」(Ⅲ-1-2参照)に関する広報業務をおこなった。「FD活動の報告会」報告書として、発表校のポスター原稿と会員校間ピアレビューを冊子化し、ニュースレター4号とともに会員校に5部ずつ配布した。なお、本報告書は、ピアレビューにおける会員校教職員間のコメントのやり取りを含むため、慎重を期して会員校の教職員のみ閲覧可能とした。また、17校の発表原稿一覧を、本協議会ウェブサイト上で一般に公開した。

(d) MOST 講習会の共催について

2011年度総会において予定されている「FD活動の報告会2011」におけるポスターセッションの発表原稿の作成と会員校間での蓄積、共有を、京都大学で構築したオンラインFD支援システム「MOST」(<https://online-tl.org>)内で作成することが推奨されている。MOST利用のための講習会が2011年3月11日に開催されるが、これを昨年度同様、本WGと共催で実施する予定である(本稿作成時点で未実施)。

3. 次年度の計画について

最後に、広報 WG 次年度の活動計画について述べる。まず、本協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、ニュースレターの発行を引き続きおこなう。ニュースレターについては、本年度に引き続き、本協議会による活動報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。さらに、本協議会で「FD 活動の報告会 2011」を次年度総会において開催するが、2010 年度と同様、会員校間のピアレビュー活動をオンラインおよび冊子媒体で蓄積・共有するための支援をおこなう。冊子は会員校に限定して配布予定である。翌年度の報告会のための講習会も共催する予定である。

(酒井 博之)

Ⅲ-1-7. 研究ワーキンググループ

研究ワーキンググループ（WG）は、関西地区 FD 連絡協議会第 3 回総会（4 月 24 日）において今年度の活動方針が承認され、新規の研究サブグループ（SG）を加えて活動を行ってきた。

現在、研究 SG は、「授業評価研究 SG」（主査校：神戸大学）、「FD メディア研究 SG」（主査校：大阪成蹊大学）、「FD デザイン研究 SG」（主査校：神戸大学）、「授業型学生支援研究 SG」（主査校：京都大学）の 4 つで活動を行っている。研究 WG や各研究 SG の活動方針については、関西地区 FD 連絡協議会の WG に関するホームページ（<http://www.kansai-fd.org/wg/>）に掲載されている。

以下では、本年度の各 SG の活動内容の概要を報告する。

1. 授業評価研究 SG

2010 年 9 月 27 日（月）、京都大学において第 1 回会合が開催された。会合には SG に所属する 13 大学 15 名の参加があり、授業評価の活用方法に関する現状と課題、各大学における授業評価を通じた授業改善活動について活発な議論が交わされた。今回の会合での議論から見えてきた共通の課題は、教員あるいは学生に対する授業評価の結果の公表（フィードバック）をどう行っていくかということであった。このような議論を受け、2011 年 3 月 16 日に授業評価ワークショップを開催し、さらに議論を深めていく予定である。

1-1. 第 1 回会合

(a) 開催概要

日時：2010 年 9 月 27 日（月）15:00～18:15

場所：京都大学 吉田南 1 号館 共 106 室

参加大学：関西医療大学、関西看護医療大学、京都医療科学大学、京都大学、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部、神戸大学、大阪樟蔭女子大学、大阪成蹊短期大学、大阪体育大学、大阪大学、兵庫大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部、和歌山信愛女子短期大学



(b) 議事

1. 議事次第と配付資料に関する説明
2. 授業評価研究 SG 主査の挨拶 (米谷 淳 教授 (神戸大学))
3. 授業評価研究 SG の活動についての報告 (大塚 雄作 教授 (京都大学))
 - ・これまでの SG の活動について
 - ・授業アンケート様式
 - ・現在抱えている課題 (授業改善への実際の活用、実施時期、回収率、作業負担、自由記述の様式や結果のまとめ方、結果のフィードバックの公開内容や公開範囲) 等について
4. 質疑応答および自由討論



2. FDメディア研究SG

FDメディア研究SGは、昨年度は出欠確認研究SGとして活動を行っていたが、本年度より名称を改め、研究課題を拡大して活発な活動を行っている。以下では、SG会合の概要と携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認見学会、i-MAS個別見学・相談会の概要についてまとめる。

2-1. 第1回会合

(a) 開催概要

日時：2010年5月21日(金) 16:30~18:00

場所：大阪商業大学メディアセンター4階、レクチャールーム2・3

参加校・企業：合計21校、1企業、31名(順不同)

- ・メンバ校 (追手門学院大学、大阪工業大学、大阪商業大学、京都文教大学、摂南大学、関西医療大学、天理大学、京都産業大学、神戸大学、大阪成蹊大学)
- ・オブザーバ校 (京都大学)
- ・オブザーバ企業 (内田洋行)
- ・ゲスト参加校 (関西学院大学、近畿大学、立命館大学、関西大学、京都女子大学、奈良文化女子短期大学、京都精華大学、京都光華女子大学、流通科学大学、帝塚山大学)

(b) 議事

1. 新規メンバの紹介 (自己紹介)

新規メンバ、ゲスト参加者の学校名提示と自己紹介があった。

2. 出席管理システムテスト運用報告

大阪商業大学より別途資料に基づいて、平成 21 年 11 月 2 日（月）～12 月 25 日（金）に行った携帯電話での出席管理システムのテスト運用に関して以下の報告があった。

- ① 出席管理システムテスト運用実施説明
- ② 出席管理システムテスト運用実施科目
- ③ 携帯電話利用の出席管理システム使用しての感想
- ④ 携帯電話利用の出席管理システムのメリット
- ⑤ 携帯電話利用の出席管理システムのデメリット
- ⑥ 携帯電話利用の出席管理システムの導入時の要望

また、携帯電話を利用した授業アンケートに関する実施結果の報告があった。

報告に対して、次のような質疑応答があった。

・携帯電話での出席と同時に小テストをするケースがあるが、これは 2 重作業にならないか

→携帯から出席登録させているので、小テストの結果を入力する際に間違いが起きないなどのメリットがある。単に小テストをやって、自分がエクセルで集計するよりは簡単で正確に行える。

・ログインパスワードを忘れた学生がいた

→導入当初は僅かだがこのようなことがある。1 ヶ月程度でこのようなことが起きなくなる。

・出席をとったら帰ってしまう学生がいても対処できるか

→2 度出欠確認をする機能が用意されている。

3. FDメディア研究 SG の説明

大阪成蹊大学より、以下の説明と提案があり了承された。

3-1. FDメディア研究 SG の取組み

3-1-1. 研究テーマ

- ・ケータイ等の ICT (i-MAS) を利用した授業アンケート、出欠確認の実施方法等のあり方
- ・i-MAS 機能拡大による、その他の授業改善につながる ICT の利用方法等のあり方
- ・大学規模での ICT 導入方法のあり方等

3-1-2. SG の研究対象

- ・FD 全般

3-1-3. 主目的

- ・ICT 等のメディアを活用して FD 効果を実現すること

3-1-4. 携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用

関西 FD 研究 WGFD メディア研究 SG 及び関西 FD 参加校に携帯電話での出欠確認、授業評価のテスト使用（無料）を呼びかけ、希望があれば使用し、その効果などを確認する。

3-2. メンバ一覧表の配布

3-3. SG 平成 22 年度スケジュール

3-3-1. 会合（改正提案）

年 5 回のペースで開催する。

- 5月：出席管理システムテスト運用報告（大阪商業大学）他
- 7月：i-MAS 新機能について（大阪成蹊大学）（7/16）
- 9月：メンバ大学の事例発表他（9/10）
- 12月：メンバ大学の事例発表他（月曜日）
- 3月：メンバ大学の事例発表他（月曜日）

3-3-2. 大阪成蹊大学で、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を実施する関西FD参加校を対象として、携帯電話での出欠確認、授業評価の見学会を開催する。前期：6月、後期：11月を予定。また、アンケート翌週の授業でその結果と対応を学生に回答するところの見学も検討する。

4. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時：2010年7月16日（金）16:30～18:00

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス

発表校：大阪成蹊大学

*会合終了後、12校・1企業17名で懇親会を実施した。



2-2. 第2回会合

(a) 開催概要

日時：2010年7月16日（金）16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学

参加校・企業：合計21校、1企業、31名（順不同）

- ・メンバ校（追手門学院大学、大阪工業大学、大阪商業大学、京都文教大学、摂南大学、関西医療大学、天理大学、京都産業大学、神戸大学、龍谷大学、大阪国際大学、奈良文化女子短期大学、京都光華女子大学、帝塚山大学、大阪青山大学、びわこ成蹊スポーツ大学、関西福祉大学、大阪成蹊大学）
- ・オブザーバ校（京都大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 新規メンバの紹介（自己紹介）

参加者リストに基づいて、龍谷大学、大阪国際大学、奈良文化女子短期大学、京都光華女子

大学、帝塚山大学、大阪青山大学、びわこ成蹊スポーツ大学、関西福祉大学、内田洋行、青森共同計算センターからの自己紹介があった。

2. 次回以降の開催について

次回（第10回）会合：9月10日（金）、大阪国際大学開催で検討することとなった。

第11回会合：12月6日（月）又は13日（月）、びわこ成蹊スポーツ大学開催で検討することとなった。

第12回会合：2011年3月、京都光華女子大学開催で検討することになった。

3. i-MAS（携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認）システムについて

3.1. 以下の内容で、当番校の大阪成蹊大学より発表があった（配布資料参照：PDF 1.9MB）。

- ・既存機能
携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認
- ・新機能
連続欠席者抽出、出席率分析機能
早退チェック機能
毎回の授業で使える簡易アンケート機能、小テスト機能
学生生活アンケート機能
授業評価公開機能
授業公開機能
- ・テスト導入時、本番導入後のアンケート調査について
アンケート内容が提示され、意見が求められた

3-2. i-MAS システム導入手順（苦勞話）

3-3. i-MAS の活用から総合的なFD活動へ

4. 次回研究会開催日程、発表校の確認

日時：2010年9月10日（金）時間未定

場所：大阪国際大学（予定）

発表校：大阪国際大学

*会合終了後、9校・2企業13名で懇親会を実施した。

2-3. 第3回会合

(a) 開催概要

日時：2010年9月10日（金）16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学南館185室

参加校・企業：合計8校、2企業、13名（順不同）

- ・メンバ校（関西医療大学、京都光華女子大学、奈良文化女子短期大学、京都文教大学、摂南大学、大阪成蹊大学、大阪国際大学、龍谷大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 大阪国際大学における FD 活動について

大阪国際大学石井康夫先生から以下の取組みの説明があった。

- ・大阪国際大学における年間 FD 関連行事
 - ・授業評価
 - ・授業自己点検
 - ・公開授業
 - ・基礎教育科目に関する取り組み
 - ・共通テキスト・教員用マニュアル作成の経緯
 - ・初年次教育カリキュラムキャンパス共通化について
 - ・民間転職者の FD に係る悩み FD に係る課題
- 質疑応答で、取り組みを賞賛する意見があった。

2. 事務局提案

大阪成蹊大学福永より、i-MAS テスト導入を実施する学校の FD 効果を実現すること、FD メディア研究サブグループの発展、今後 i-MAS をテスト導入・本格導入する学校の支援するために次の提案があった。

- ・FD メディア研究サブグループでの i-MAS テスト導入について
- ・FD メディア研究サブグループでの一人 i-MAS テスト使用について
- ・i-MAS テスト導入アンケートについて

注：i-MAS は、internet-Mobile Attendance System（携帯電話での出欠確認システム）の略

3. 次回（第 11 回）会合

日時：2010 年 12 月 13 日(金) 16:30～18:30

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス

発表校：びわこ成蹊スポーツ大学

*会合終了後、4 校・2 企業 8 名で懇親会を実施した。

2-4. 第 4 回会合

(a) 開催概要

日時：2010 年 12 月 13 日（月）16:30～18:40

場所：大阪成蹊大学南館 181 室

参加校・企業：合計 13 校、2 企業、22 名（順不同）

- ・メンバ校（京都大学、神戸大学、帝塚山大学、大阪商業大学、関西医療大学、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、京都文教大学、天理大学、奈良文化女子短期大学、藍野大学、四條畷学園短期大学、大阪樟蔭女子大学）
- ・オブザーバ企業（内田洋行、青森共同計算センター）

(b) 議事

1. 開催にあたって

関西地区 FD 連絡協議会研究 WG 主査米谷淳教授より、関西地区 FD 連絡協議会における FD 活動等の解説をいただいた。

2. びわこ成蹊スポーツ大学での i-MAS 運用状況について

びわこ成蹊スポーツ大学金森教授より、i-MAS 導入までの流れ、i-MAS 使用状況、i-MAS のメリット、講義科目のメリット、2009 年度・2010 年度授業評価アンケート、今後の展望などの発表があった。

3. 大阪商業大学でのテスト導入について

大阪商業大学高橋美貴教授より 23 年度 i-MAS 本格導入に向けた今年度のテスト導入状況の報告があった。12 科目で実施しており 2600 名程度の学生が対象になっている。

4. 関西医療大学でのテスト導入について

関西医療大学榎田高士教授、吉岡正樹事務局長より、i-MAS テスト導入の状況の報告があった。i-MAS テスト導入に至る経過、委員会の立ち上げ、説明会、テスト使用状況などが報告された。

5. トラブル報告

青森共同計算センター清野課長より、障害報告があった。

6. 第 7 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント

授業評価ワークショップⅡに本研究 SG も積極参加したい旨の提案があった。

7. 次回以降会合

来年度も年間 5 回程度の会合開催を計画していること、未発表校は今後是非発表頂きたい旨の提案があった。

8. 本日の会合に関して

関西地区 FD 連絡協議会事務局大塚雄作教授より、今回の会合に関する総括をいただいた。



2-5. 前期「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

日時：2010 年 6 月 9 日（水）10:30～11:30、6 月 14 日（月）10:30～11:30

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

6月9日、14日の2回に分けて大阪成蹊大学相川キャンパスで、「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会を実施した。6月9日（水）は7校、1企業、16名参加、6月14日（月）は11校、1企業、19名参加、合計16校、1企業、35名参加。

2-6. 後期「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

日時：2010年11月30日（火）12:50~14:50、12月1日（水）11:50~13:10

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

11月30日、12月1日の2回に分けて大阪成蹊大学相川キャンパスで、「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会を実施した。11月30日（火）は6校、8名参加、12月1日（水）は3校、1企業、7名参加、合計9校、1企業、15名参加。

2-7. 第1回 i-MAS 個別見学・相談会

(a) 開催概要

日時：2010年7月30日（金）13:00~17:00

場所：大阪成蹊大学 相川キャンパス

見学・相談校：関西医療大学、大阪国際大学

導入指導校：京都文教大学、大阪成蹊大学

参加者：垣鏝祐介氏（京都文教大学）、吉岡正樹氏、山口英樹氏、榎田高士氏、高崎恭輔氏（以上関西医療大学）、石井康夫氏（大阪国際大学）、福永栄一氏（大阪成蹊大学）

(b) 議事

1. 開催校（大阪成蹊大学）からの説明

以下の資料に基づいて、i-MASでの授業評価アンケート、出欠確認のテスト導入手順を大阪成蹊大学福永より説明があった。

- ・i-MASによる授業評価アンケートの資料

 - 少数教員でのテスト使用

 - 学部全体でのテスト使用

 - 学部全体での導入、導入後の運用

- ・i-MASと既存システムのデータ連携に関する資料

- ・i-MASと既存システムのデータ連携の作業内容、作業量に関する資料

- ・学生へのガイダンス（説明）に関する資料

- ・教員へのi-MASの説明に関する資料

- ・i-MASに関するQ&A資料

- ・保護者への連絡に関する資料

- ・i-MAS導入のためのプロジェクトチーム設立、プロジェクト推進に関する資料

テスト導入の前に、1教員・1授業でi-MASを使うことができる。この方法で先ず、具体

的に i-MAS の効果などを確認することになった。

2. 導入指導校（京都文教大学）からの説明

以下の資料に基づいて、i-MAS での授業評価アンケート、出欠確認のテスト導入に関する重要ポイントを、導入実績・経験に基づいて京都文教大学垣鏑祐介氏より説明があった。

- ・これまでの授業評価アンケートに関する資料
- ・i-MAS による授業評価アンケートの資料
- ・アンケートシートのサンプル
- ・授業評価アンケート集計冊子

3. i-MAS 体験

参加者が実際に i-MAS を体験した

- ・出欠確認
- ・簡易アンケート（小テスト）

参加者が出席分析機能等を確認した

- ・連続欠席分析
- ・欠席率分析
- ・学生生活アンケート

4. 質疑応答、その他

随時、活発に質疑応答が行われた。

5. 今後について

- ・授業評価アンケートの現状を FD メディア研究サブグループで共有するために、ワークショップ等の開催が提案された
- ・授業評価アンケートデータのグラフ化など、FD メディア研究サブグループ参加校共同での開発が提案された

3. FD デザイン研究 SG

FD デザイン研究 SG は、FD の研修会や研修プログラムなどのあり方を、インストラクショナル・デザインの理論等をベースに共同研究を進めることを目的とする SG として、本年度から新規の SG として活動を開始した。第 1 回会合は、9 月 6 日（月）午後 3 時 30 分～5 時 30 分、神戸大学国際文化学部キャンパスで開催された。

3-1. 第 1 回会合（共同研究会）

(a) 開催概要

日時：2010 年 9 月 6 日（月）15:30～17:30

場所：神戸大学 鶴甲第一キャンパス

参加者：大野隆、米谷淳、山内乾史（神戸大学）、大塚雄作、酒井博之（京都大学）、三宅エリ子（同志社女子大学）、福永栄一（大阪成蹊大学）

(b) 議事

1. 主査校（神戸大学）からの説明

- ・FDメディア研究WGの趣旨
- ・第1回共同研究会の説明
- ・講師紹介

2. 研究発表

- ・発表者 酒井博之氏（京都大学）
- ・タイトル 「オンラインFD支援システム“MOST”とFDデザイン」
- ・要約 MOSTは京都大学がカーネギーメロン大学の技術協力を得てFDのために開発したツールであり、すでに関西地区FD連絡協議会などで使用されている。この開発のねらいから今後の運用計画までが説明された。

4. 授業型学生支援研究SG

授業型学生支援研究SGは、授業の場で自己理解やメンタルヘルスの向上に役立つ予防的知識やスキルを提供する授業実践について共同研究を行うことを目的とし、新規のSGとして活動を開始した。第1回会合は、2010年11月19日（金）、京都大学において行われた。本SGは新規のSGであるため、今回の会合では本SGの趣旨を確認するとともに、各参加者の現在の関心を共有し、今後の活動方針について議論することを目的とした。

会合では、学生の不適応予防や自己理解の促進に役立つ授業の実践例が報告され、その意義や実施上の工夫点、課題などが活発に議論された。今後は、こうした取り組みを発展させるため、同様の実践に関する情報収集を行うなど定期的に研究会を開催し、研究を進めていく予定である（第2回会合として、2011年2月18日（金）、京都大学で実施）。

4-1. 第1回会合

(a) 開催概要

日時：2010年11月19日（金）12:00～14:30

場所：京都大学 吉田南1号館 201会議室

参加大学：京都文教大学、大阪国際大学、京都大学

(b) 議事

1. 授業型学生支援研究SGの趣旨説明、参加者の自己紹介
2. 授業の場における予防的実践例の報告
3. 今後の活動計画
4. 自由討論

（大塚雄作、及川恵、石川裕之）

Ⅲ-1-8. 主催・共催・協賛イベント一覧

年月日	イベント概要
2010.5.15 【主催】	関西地区 FD 連絡協議会主催 関西学院大学共催 講演会：大学教育とその問題点「高等教育の意義と解決すべき問題点」 講師：絹川正吉 元国際基督教大学学長 於：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス G 号館 326 号教室
8.2 【協賛】	京都大学高等教育研究開発推進センター／財団法人電通育英会主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 大学生研究フォーラム 2010 講演：中原淳（東京大学 大学総合教育センター 准教授） 基調講演：高橋俊介（慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員） 事例報告・パネルディスカッション 「正課教育とキャリア教育を総合して学生の学びと成長を考える」 番田 清美（東京学芸大学 学生キャリア支援センター 特任准教授） 梶原 昭博（北九州市立大学 国際環境工学部 教授/学部長） 高橋俊介（慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員） 渡辺三枝子（立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授） 加藤敏明（立命館大学 共通教育推進機構キャリア教育センター 教授/センター長） 溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 於：京都大学百周年時計台記念館
9.7 【協賛】	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 公開シンポジウム 「FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」 基調報告「相互研修型 FD 共同利用拠点の仕事」 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長／教授） パネル報告： 報告：天野郁夫（東京大学 名誉教授） 館 昭（桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科教授） 寺崎昌男（立教学院 本部調査役） 羽田貴史（東北大学高等教育開発推進センター 教授）

	<p>絹川正吉（新潟大学 理事） 小松親次郎（文部科学省大臣官房 審議官）</p> <p>パネルディスカッション 於：京都大学芝蘭会館稲盛ホール</p>
<p>12.11 【協賛】</p>	<p>関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第4回FDフォーラム（三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 中間報告会） 基調講演①「学生参画型教育改善の可能性～ラーニングアシスタントの先に見えるもの～」 講演者：橋本勝（岡山大学教授） 調講演②「アクティブ・ラーニングだからこそ求められる知識、広がる学生生活」 講演者：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 中間報告」 三浦 真琴（関西大学教育推進部 教授）</p> <p>パネルディスカッション 於：関西大学千里山キャンパス第1学舎千里ホールA</p>
<p>12.22 【協賛】</p>	<p>龍谷大学大学教育開発センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 「2010年度龍谷大学 FD フォーラム」 基調講演「実践的に見る現代大学生の特徴と初年次教育への接続」 講演者 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>パネルディスカッション パネリスト 溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 谷口哲也（河合塾教育研究開発本部教育研究部統括チーフ） 横山宏氏 （大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科准教授） 須賀 英道（龍谷大学保健管理センター長） コーディネーター 中村 博幸氏（京都文教大学臨床心理学部教授） 司会 谷 直樹（龍谷大学経済学部准教授）</p> <p>於：龍谷大学 深草学舎 21号館 4階 402教室</p>
<p>2011.1.8 【主催】</p>	<p>関西地区 FD 連絡協議会主催 ワークショップ「思考し表現する学生を育てる－書くことをどう指導し、評価するか？III－」 講演「学生の潜在能力と対話型教育－卒論・ゼミ指導の9年間の実践から」 講師：北野 収（獨協大学外国語学部 教授）</p>

	<p>事例紹介「” 十字モデル” を使った試み」 講師：須長 一幸（関西大学教育推進部 助教） 齊尾 恭子（関西大学教育推進部教育開発支援センター 研究員）</p> <p>グループワーク 全体討論 司会：安岡高志（立命館大学教育開発推進機構 教授） 於：京都大学吉田南 1 号館</p>
2.20 【協賛】	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 国際シンポジウム「高校/大学から仕事へのトランジション – 自己形成の場としての学校教育の到来–」</p> <p>特別講演「後期近代におけるアイデンティティ資本—ソフトスキルと教育から仕事へのトランジション」 ジェームズ・コテ（James Côté）（ウェスタンオンタリオ大学教授）</p> <p>パネルディスカッション パネリスト 乾 彰夫（首都大学東京 人文・社会系／東京都立大学人文学部教授） 浅野 智彦（東京学芸大学教育学部准教授） 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 於：京都大学百周年時計台記念館</p>
3.16 【主催】	<p>関西地区 FD 連絡協議会主催 授業評価ワークショップ II「授業評価の効率的実施と効果的活用」</p> <p>ミニレクチャー 1：授業評価の最近の動向 米谷 淳（神戸大学教育開発機構教授）</p> <p>ミニレクチャー 2：授業評価におけるメディア活用 福永栄一（大阪成蹊大学准教授）</p> <p>グループワーク 全体討論 於：京都大学吉田南 1 号館</p>
3.17, 18 【協賛】	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 第 17 回大学教育研究フォーラム</p> <p>開会の挨拶：松本紘（京都大学総長） 報告者：森 利枝（大学評価・学位授与機構学位審査研究部准教授） 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p>

	<p>森本 剛 (京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター講師)</p> <p>伊藤 浩行 (広島大学大学院工学研究院准教授)</p> <p>澤登 秀雄 (創価大学教務部課長)</p> <p>司 会 : 大塚雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>その他、個人研究発表、小講演、ラウンドテーブル企画</p> <p>於 : 京都大学 百周年時計台記念館・吉田南 1 号館・吉田南総合館</p>
--	---

(笹尾 真剛)

Ⅲ-2. 大学生キャリアセミナー京都

1. 概要

「大学生キャリアセミナー京都」は、学生の大学生活に焦点を当てて、彼らの学業やキャリア発達（将来のビジョン・社会人基礎力）を支援するための正課外・インターカレッジのセミナー、である。学生の大学生活は、近年盛んになされているFD（ファカルティ・ディベロップメント）/教育改善と、学生のキャリア教育（キャリア形成支援も含む）とを接続する空間として設定されるもので、政策的には、昨年末に提示された中央教育審議会 大学分科会 質保証システム部会「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の実施について（審議経過概要）」（平成21年12月15日）にも関連すると考えているものである。

さて、FD/教育改善はどこの大学でもかなり本格的になされるようになってきており、教員の授業への取り組み方や教授法・授業内容、さらにはそれらを取り巻く授業ツールや授業システム、カリキュラムはずいぶん改善・発展している。今日の学生は以前の学生に比べて、学業（授業）中心の大学生活を過ごすようになってきており、FD/教育改善の成果も表れているとまずは見て取れる。他方で、キャリア教育も、キャリアセンター（やそれに準ずる組織）を中心に正課内外で、セミナーや講習会、インターシップやキャリアデザインの授業など、さまざまなプログラムを提供しており、充実してきている。学生はこのようなプログラムへの参加を通して社会を学んだり、将来自分はどのような職業に就きたいのか、どのような人生を過ごしたいのかなどの自己理解を深めたりしている。

これまで一般的な傾向として、FD/教育改善は正課教育、キャリア教育はどちらかと言えば正課外教育と、両者は独立して進められてきた。FD/教育改善は、教養教育や専門教育に関する授業・カリキュラムに主な焦点を当て、授業やカリキュラムを学生のキャリア発達とつなげて改善しようとはしてこなかった。他方でキャリア教育は、たとえ単位になる授業が正課教育のなかで開講されようとも、一般的には正課外のプログラムを基礎としており、それらを一般の授業やカリキュラムと関連づけようとはしてこなかった。いま求められるのは、独立して進められているFD/教育改善とキャリア教育を学生の経験世界や日常生活のうえで統合して取り組みを見直していくことである。上述のキャリアガイダンスに関する政策も、単にキャリア支援として理解するのではなく、学士課程教育における質保証を、キャリア発達を含めた学生の経験世界のなかで実現していくこととして理解されるべきものである。その意味での、正課教育とキャリア教育の架橋である。

学生の経験世界・日常生活から見ると、学業とキャリア発達の問題は十分に接続・統合されていないことが多い。学生たちの多くは、授業にまじめに参加して知識を得て課題をこなしている。キャリア教育に参加して、将来や社会のことをいろいろ考えている。しかし、授業やキャリア教育などの与えられる場での取り組みが充実している一方で、そこから自らのキャリアや人生、学業の意味を一体として見いだすことはなかなかできないでいる。

京都大学高等教育研究開発推進センターと（財）電通育英会で実施した「大学生のキャリア意識調査 2007」（<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>）の結果によれば、7割の大学生は将来の見通し（キャリアデザイン）を持っていると答えている。中学・高校以来のキャリア教育が功を奏しているとも言えるし、厳しい就職環境のなか将来に対する高い関心が表れているとも言える。しかし、問題なのは、それを実現するために日常生活のなかで努力していると答える者が2割ほどしかいないことである。しかも、筆者が個別の大学で調査している同種の調査結果では2割を切ることの方が多いので、その意味では、実際にはかなりの学生の将来やキャリアが日常生活と接続していないと言える。それでも学生たちは、昨今の大学教育改革や厳しい就職環境を背景に、学業（授業）中心の大学生活を過ごしており、このギャップがいまや問題視されている。

このような正課教育とキャリア教育の統合問題を、カリキュラムのうえで実現することは一案である。実際、キャリア教育を柱にして従来の正課カリキュラムを再編成・統合している大学の数は増えており、そのいくつかは教育 GP（Good Practice）に採択され、高く評価されている。もちろん、この統合カリキュラムの理念が学生の経験世界・日常世界で実現しているかは別物であるから、その検証や実態調査をおこなっていく必要はあるだろう。理念と実態とを摺り合わせて PDCA サイクルをまわし、学生の実質的な学びと成長につながるカリキュラムの構築が期待される。

それに対して、伝統的・総合的な大学・学部は、このような統合カリキュラムに向かうことは難しく、現実的ではないことが多い。正課教育とキャリア教育とを統合する方策は統合カリキュラムだけではないので、大学の実情にあった別の方策を考えていくべきである。

大学生キャリアセミナー京都は、カリキュラム上での正課教育とキャリア教育の統合ではなく、学生の経験世界・日常生活のなかで統合をはかるべく始めた取り組みである。セミナーは、学生の大学生活に焦点を当てて、彼らの学業やキャリア発達を支援するための正課外・インターカレッジのセミナー（学生研修）である。上述したように、この取り組みは京都大学高等教育研究開発推進センターの地域拠点活動の一つとして位置づけられているもので、学生へのセミナーでありつつ、同時に学生の経験世界・日常生活と正課教育・キャリア教育をどのようにつなげられるかのアクションリサーチとしての意義も込められている。

セミナーは、学生の大学生活から学業やキャリアデザイン、その他学生の成長を考えていくことが、大学教育に関するあらゆる取り組みを充実・発展させる、という視座にもとづいて取り組まれている。セミナーはインターカレッジを特徴の一つとするが、もちろんこれは必須の要素ではない。重要なのは大学生活に焦点を当てて、学生の経験世界・日常生活で起こっていることを知ることである。セミナーでは、そこから学生の学業やキャリア発達を統合させるようにプログラムが実施されるが、個別の大学では、そこから正課教育や FD、キャリア教育を見直すというようになるだろう。上記の統合カリキュラムも、学生の経験世界や日常生活で統合カリキュラムが実質的に機能しているかを検証しなければならないわけであるから、結局はここで述べているものと同じ作業が求められる。学生の大学生活は、大学教育の取り組みを学生の学びと成長へ実質化していくための基本的視座である。

また、学生は大学4年間（6年間）のなかで、正課教育・キャリア教育以外にもさまざまな正

課外活動（クラブサークル、アルバイト、ボランティア、地域活動など）を通して学び、成長している。大学生活は、正課教育・キャリア教育はもちろんのこと、これらの正課外活動をも包含する全体的（holistic）な空間である。学生の大学生活に焦点を当てることは、学生の正課・正課外全体における学びと成長を考えることにもつながるのである。

授業やキャリア教育、カリキュラムなど、いろいろ教育改革が展開していいのだが、そろそろ学生の大学生活の視点から、学生の学びと成長の視点から、これまでおこなってきたさまざまな教育改革の取り組みを見直す、統合する作業が必要ではないか。セミナーの実践はこのような問題意識を提起し、大学でのさまざまな取り組みを見直す、統合するための基本的視座を提供するものである。

2. 地域拠点としての大学生キャリアセミナー京都——大学間ネットワーク

近年の大学教育改革における世界的な流れの一つに、「教える（teaching）から学ぶ（learning）へ」をスローガンにした授業・カリキュラム改革がある。この考え方において、教員は何を教えるかではなくて、学生が何を学んだのかを指標として、FD や教育改善をおこなう。大学卒業資格を得れば「学校から仕事への移行（school-to-work transition）」が成り立っていた一昔前の時代と違って、今日では大学教育がはたして学生の学びと成長に貢献することができるのかが、真正面から問われている。

京都大学高等教育研究開発推進センターは、大学教育改革の流れのなかで、文部科学省より2008年度政策課題対応経費「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」、2009年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」の各経費を受けて、「学内」「地域」「全国」「国際」の各レベルで相互研修型FDの拠点形成を進めてきた。2010年3月には、「教育関係共同利用拠点」にも認定を受けた。

この相互研修型FDの拠点形成がFDを主テーマとする取り組みであることは、言うまでもないが、実際の取り組みのなかにはFDに直接関わるものから間接的に関わるものまでさまざまある。本稿に関わるもので言えば、(財)電通育英会と共催で取り組んできた「大学生のキャリア意識調査」や「大学生研究フォーラム」（それぞれの成果は<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/>を参照）は、学生の視点、学生の実態から学生の学習、ひいては大学教育やFDを考えていくものとして、相互研修型FDの「全国拠点」の取り組みの一つとして位置づけられている。

セミナーは、「大学生のキャリア意識調査」の結果と「大学生研究フォーラム」での報告者・参加者との議論を経て取り組まれ始めた実践で、相互研修型FDの「地域拠点」の取り組みの一つとして位置づけられているものである。取り組みの成果は、FD/教育改善・キャリア教育に携わる高等教育機関・関係者にフィードバックされるが、それだけでなく関係者がオブザーバーとして参加することで、学生の学業や学生生活、キャリア発達の視点から大学教育・授業、そしてキャリア教育を考え直す場ともなっている。

3. プログラムの特徴

1年に1サイクル(半年)×2で、計2サイクルをまわす。1サイクルは、「キャリアセミナー」と称する3回のプログラム(1回3時間+懇親会)とそのあいだで開かれる「学習サロン」(およそ2週間に1回、2時間)の組み合わせで計画される。

キャリアセミナーは、3回それぞれのフォーカステーマを持っている。第1回は大学生活と将来をつなげることであり、第2回は学業と将来をつなげることであり、第3回は創造的思考や英語表現である。学習サロンは、キャリアセミナーで学んだこと、確認したことをもとにして、日々の大学生活で学習していること、読んでいる本、目的や課題をもって取り組んでいること、将来のビジョンなどについて、参加者同士でプレゼンテーションをする、ディスカッションをする場である。

例として、第1サイクルで開かれる2010年度のスケジュールを表1に示す。年度前半のプログラムを4月から始めるのではなく、前年度の終わり(2/6)から始めるのは、学生に前年度の大学生活を振り返り、次年度(2010年度)に向けての課題を見出してから、新たな年度を迎えてほしいと考えてのことである。大学生活に焦点を当てて取り組まれる大学生キャリアセミナー京都であるから、学生には、真っ白な状態でプログラムを受けるのではなく、これまでの経験、これまで過ごしてきた大学生活を基盤としてセミナーのプログラムを受けてほしいと考えるのである。

表1 大学生キャリアセミナー京都のスケジュール(2010年度第1サイクル)

日時 (2010年)	曜日	対象	回	会の名称	フォーカステーマ
2/6	土	1・2年生	第1回	キャリアセミナー	日々の大学生活と将来の就職・キャリアをつなげる
4/17	土	2・3年生	第2回	キャリアセミナー	大学での勉強が自分の将来につながるために
4/25	日	2・3年生		学習サロン	
5/8	土	1年生	第1回	キャリアセミナー	日々の大学生活と将来の就職・キャリアをつなげる
5/22	土	1・2・3年生		学習サロン	
5/29	土	1・2・3年生		学習サロン	
6/12	土	1・2・3年生		学習サロン	
6/19	土	2・3年生	第3回	キャリアセミナー	学業・大学生活を通してアイデア豊かな人となるために ／英語で自分の日常や将来を表現しよう
6/26	土	1年生	第2回	キャリアセミナー	大学での勉強が自分の将来につながるために
6/27	日	2・3年生		学習サロン	
8/3	火	1・2・3年生		キャリアセミナー 大会	前期の反省、後期に向けての課題

4. 参加学生の属性

参加学生の特徴を、これまで実施した2/6キャリアセミナー(1・2年生対象)、4/17キャリアセミナー(2・3年生対象 *2/6のキャリアセミナーと同じ学年である)の結果から把握する。表2は参加学生の大学、表3は専門分野、表4は学年、表5は性別をまとめたものである。

表2を見ると、第1回が14大学・30人（38人申し込み）、第2回は15大学・37人（48人申し込み）の学生が参加していることがわかる。和歌山県の大学生は、いずれも参加していない。表3からは文科系（人文・社会系）学生の参加が多いことがわかるが、理科系（理工系、医療系など）の学生の参加も少なくない。学年差、男女の参加比率は、表4・表5のとおりである。

表2 参加学生の大学

	2/6	度数	4/17	度数
1	立命館大学	5	京都大学	6
2	滋賀大学	5	立命館大学	4
3	京都大学	5	関西学院大学	4
4	神戸大学	3	奈良県立大学	3
5	同志社大学	2	追手門学院大学	3
6	追手門学院大学	2	大阪樟蔭女子大学	3
7	大阪市立大学	1	神戸大学	3
8	神戸流通学大学	1	神戸常盤大学	2
9	神戸女学院大学	1	滋賀大学	2
10	近畿大学	1	近畿大学	2
11	京都造形芸術大学	1	流通科学大学	1
12	京都教育大学	1	同志社大学	1
13	京都ノートルダム女子大学	1	神戸女学院大学	1
14	立教大学	1	関西大学	1
15			立教大学	1
	計	30	合計	37

表3 参加学生の専門分野

	2/6	4/17
文科系	22	30
理科系	7	5
文理融合系	1	2
計	30	37

表4 参加学生の学年

	2/6	4/17
1年生	15	1
2年生	15	15
3年生	—	21
計	30	37

表5 参加学生の性別

	2/6	4/17
男性	11	18
女性	19	19
計	30	37



図1 2/6 キャリアセミナー（1・2年生対象）の様子



図2 4/17 キャリアセミナー（2・3年生対象）の様子

5. 本年度を振り返って

大学生キャリアセミナー京都は、関西一円の4年制大学の学生1～3年生を対象としており、半期に2～3回おこなわれる研修プログラム「キャリアセミナー」と、その間で日常の成果を試す場としての「学習セミナー」から構成されている。セミナーには、大学生活や学業に比較的適応した学生が中心に参加するようであるが、大学生活や学業等に問題があって、それを改善したいという学生も少なからず参加する。両学生群の相互作用がセミナーの実践的成果につながっていると考えられた。セミナーへの満足度はかなり高く、学生たちはセミナーを通して自身の学業や大学生活を振り返り改善の指針を得たと言える。

6. 付録資料

『大学生キャリアセミナー京都』案内ポスター（2010年4月17日実施分）

（溝上 慎一）

京都大学高等教育研究開発推進センター主催

大学生キャリアセミナー京都2010

第2回参加者追加募集

第1回目(2/6実施)に参加されていない方もご参加になれます。

いろいろな人と知り合って自分を高めたい

一歩でも上に成長したい

大学生活を何とか立て直したい

大学での勉強が何の役に立つのか疑問だ

そう思う人は是非参加してください!

【日時】2010年**4月17日(土)** 13:00-17:00 +懇親会(19:00まで)

【場所】京都大学吉田南キャンパス 吉田南1号館の教室

【参加資格】関西の4年制大学 **新2・3回生**

*教室定員に達した場合は、参加できないこともあります。あらかじめご了承ください。
*セミナーは、第3回が6/19(土)にもあります。都合のつく方はあわせてご参加ください。

【参加費】無料

【プログラム】第2回フォーカステーマ「**大学での勉強が自分の成長につながるために**」

- ・目標・課題の中間成果報告
- ・3人でのグループワーク
- ・交流懇親会 食事をしながらいろいろな参加者と議論してもらいます

テーマ

「日々の大学生活と将来の就職・キャリアをつなげる」

このセミナーは以下のテーマについて考えることで、皆さんの就職活動や将来のキャリア形成、それを支える大学生活や学業の充実を支援します。ふるってご参加ください。

- ・卒業後どのような職業に就きたいか。そのために今どんな努力をしているか。
- ・将来、どのような人生を過ごしたいか。(例)趣味、家族、友人づきあいなど
- ・自分が一歩上に成長するために今やらなければならないことは何か など

【参加申込の方法】

下記の情報を記入し、件名に「キャリアワークショップ申し込み」とお書きの上、eメールでお申し込み下さい。当日に向けての詳細は折り返しご連絡いたします。

①名前(ふりがな) ②大学・学部・学年 ③いつも見ているメールアドレス(携帯メールの場合は、パソコンのメールアドレスと両方書いてください) ④参加理由

Email: smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp (担当: 清上慎一)

*お問い合わせ: 上記メールまたは電話 (075-753-3047 研究室直通)



